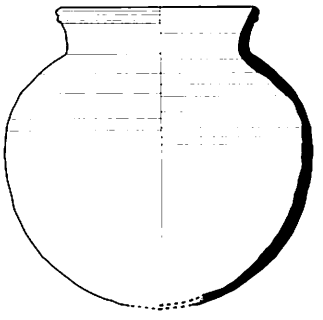
熊本大学埋蔵文化財調査報告書第２集

熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅱ

― 本荘南地区発生医学研究センター施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―



2007

熊本大学埋蔵文化財調査室

熊本大学埋蔵文化財調査報告書第２集

熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅱ

― 本荘南地区発生医学研究センター施設整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 ―

2007

熊本大学埋蔵文化財調査室

巻頭図版

1．0402調査地点の鳥瞰写真（南より）

2．0402調査地点の遺構検出状況（上空より）

序　　文

2003年は本学における再開発がスタートして９年目となる。この間、数多くの地区において校舎建設に伴い大規模な発掘調査や数多くの立会調査を実施してきた。校舎の改築とライフラインの再整備は大学の直面する喫緊の課題であるが、大学の立地する敷地のほとんどには埋蔵文化財が存在し、開発に先立つ調査が不可欠である。

今回 PFI 事業による発生医学研究センターの校舎建設のために実施した発掘調査では、縄文時代後期の竪穴住居址や古墳時代の竪穴、そして古代の竪穴住居址や溝などが検出された。この一帯は白川の南岸にあたり、白川から分岐した用水路が比較的多く存在する土地柄である。このような土地景観は地表下にも確認することができ、その歴史が古いことを物語っている。ただし、水田化する前は集落が営まれていたことも明らかになった。

今回の発掘調査によって検出された遺構群は決して完全な形で残されたものではなく、断片的なものがほとんどであったが、これらを周辺での調査成果と丁寧に継ぎ合せていくことで、一帯の歴史的変遷を把握することが可能である。

本書は、本事業に伴って３年間にわたって実施した調査の成果を広く公開し、一般市民の方に埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうとともに、学術研究資料としての利用を図るものである。

本学の再開発は継続中であるが、今後も文化財の保護と普及啓蒙に努力していきたい。この間、調査にご協力を惜しまれなかった熊本市教育委員会、熊本県教育庁および周辺市町村の文化財ご担当各位に感謝申し上げます。

平成19年３月31日

熊本大学埋蔵文化財調査委員会

委員長　伊藤　重剛

例　　言

1．本報告書は、平成15～17年に熊本大学本荘南地区で実施されたPFI事業：本荘南地区発生医学研究センター施設整備事業によって熊本大学医学部敷地内において行われた工事に伴い、熊本大学埋蔵文化財調査室が2003～2005年度に実施した発掘調査に関する報告書である。

2．発掘調査の成果は年度ごとに整理し、報告する。このPFI事業に関連する熊本大学埋蔵文化財調査室の調査番号は以下のとおりである。

　2003年度：3014，2004年度：0402，2005年度：0503

3．以上の調査を実施した2003～2005年度の埋蔵文化財調査室の組織と調査体制は以下のとおりである。

2003年度　室　　長：甲元眞之（文学部教授）
　　調　査　員：小畑弘己（文学部助教授）・大坪志子（文学部助手）
　　事務補佐員：坂元紀乃

2004年度　室　　長：甲元眞之（文学部教授）
　　調　査　員：小畑弘己（文学部助教授）・大坪志子（文学部助手）・檀　佳克（技術補佐員）（1月から）
　　事務補佐員：前田知聖

2005年度　室　　長：甲元眞之（文学部教授）（7月まで）・木下尚子（文学部教授）（10月以降）
　　調　査　員：小畑弘己（文学部助教授）・大坪志子（文学部助手）・檀　佳克（技術補佐員）
　　事務補佐員：前田知聖

4．本文は、小畑弘己が執筆した。

5．本書に使用した遺構実測図に関しては、小畑以外に埋蔵文化財サポートによるものである。

6．本書に使用した遺物実測図は、小畑の他、熊本大学考古学研究室学生、長谷智子、山寄早苗が作図した。

7．本書に使用した図版の製図は小畑の他、増井弘子、鬼塚美枝が行った。

8．遺構実測及び製図には手描による記録とともに遺跡調査汎用システム（カタタ Ver. 3－アーケオテクノ社）、アイシン精機株式会社の遺跡実測支援システム「遺構くん」及び製図システム「トレース3Dくん」を使用した。

9．本書に使用した現場写真は上記調査員が、遺物写真は小山正子、末吉美記、溜渕俊子がこれを撮影した。

10．本書で使用した遺物観察表は、小畑の他、江口　路、鬼塚、首藤優子、溜渕、長谷、山寄が作成した。

11．本書に掲載した出土遺物および記録類は、すべて熊本大学埋蔵文化財調査室が保管している。

12．本書の編集は小畑が行った。

本文目次

1．発掘調査の経緯と調査経過
（1）発掘調査の経緯 …… 1
（2）調査経過 …… 1
2．周辺の遺跡と既往の調査の概要
（1）遺跡の立地と周辺の遺跡 …… 1
（2）既往の調査と成果 …… 3
3．（本荘南）発生医学研究センター施設整備事業に伴う発掘調査（0314調査地点）
（1）調査の目的と経過 ……11
（2）調査区の基本層序 ……12
（3）検出遺構 ……12
（4）まとめ ……14
4．（本荘南）発生医学研究センター施設整備事業に伴う発掘調査（0402調査地点）
（1）調査の目的と経過 ……15
（2）調査区の基本層序 ……15
（3）検出遺構 ……18
（4）出土遺物 ……26
（5）まとめ ……31

挿　図　目　次

図1　本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）…… 2
図2　PFI事業関連の調査地点配置図（1/2000）……11
図3　0314調査地点遺構配置実測図（1/450）……13
図4　0402調査地点調査区土層断面実測図（1/100）……16
図5　0402調査地点遺構配置図（1/250）……17
図6　1号溝・3号・4号・5号溝実測図（3/200・1/60）……19
図7　各溝の土層断面実測図（1/50・1/25）20
図8　15号竪穴住居址実測図（1/50）……22
図9　30号竪穴住居址実測図（1/50）……23
図10　21号竪穴遺構実測図（1/50）……24
図11　22号竪穴遺構実測図（1/50）……25
図12　0402調査地点出土遺物実測図1（1/4）……27
図13　0402調査地点出土遺物実測図2（1/4・1/2）……28
図14　0402調査地点出土遺物実測図3（1/2）……31

巻頭図版目次

1．0402調査地点の鳥瞰写真（南より）
2．0402調査地点の遺構検出状況（上空より）

図版目次

図版１　0314調査地点……33
写真１　Ⅰ区全景（西より）
写真２　Ⅱ区全景（南より）
写真３　Ⅱ区5号溝（東より）
写真４　Ⅱ区7号溝（西より）
写真５　Ⅱ区調査風景（南より）
図版２　0402調査地点……34
写真６　0402調査地点の鳥瞰写真（南より）
写真７　0402調査地点の遺構検出状況（上空より）
図版３　0402調査地点……35
写真８　Ⅰ区全景（北西より）
写真９　Ⅱ区全景（北西より）
写真10　Ⅲ区全景（西より）
写真11　Ⅱ・Ⅲ区全景（西より）
写真12　Ⅰ区全景（南西より）
写真13　Ⅰ区南壁（北より）
写真14　Ⅰ区東壁（西より）
写真15　１号溝・２号土坑（南西より）
図版４　0402調査地点……36
写真16　１号溝（東より）
写真17　１号溝土層断面（東より）
写真18　２号土坑土層断面（東より）
写真19　43・44・45溝（南より）
写真20　43・44・45号溝（北西より）
写真21　６号溝（南西より）
写真22　６号溝土層断面（南西より）
写真23　10号溝土層断面（北より）
図版５　0402調査地点……37
写真24　10号・20号溝（北より）
写真25　10号溝土師器皿出土状況（南より）
写真26　14号溝土層断面（北より）
写真27　14号溝遺物出土状況1（西より）
写真28　14号溝遺物出土状況2（東より）
写真29　32号溝土層断面（南より）
写真30　33号溝土層断面（北より）
写真31　33号溝内ピット（49号）遺物出土状況（東より）
図版６　0402調査地点……38
写真32　21号竪穴遺構（西より）
写真33　22号竪穴遺構遺物出土状況（北西より）
写真34　22号竪穴遺構土層断面（北より）
写真35　22号竪穴遺構竈状遺構（南西より）
写真36　15号竪穴住居址（東より）
図版７　0402調査地点……39
写真37　30号竪穴住居址遺物出土状況１（南より）
写真38　30号竪穴住居址遺物出土状況２（南より）
写真39　30号竪穴住居址遺物出土状況３（南より）
写真40　30号竪穴住居址（西より）
図版８　0402調査地点出土遺物１……40
図版９　0402調査地点出土遺物２……41
図版10　0402調査地点出土遺物３……42

表目次

表１　本庄遺跡（本荘北・南地区）で実施された調査一覧（1995－2005年度）…… 4
表２　0402調査地点出土遺物一覧表……29

誤	正
P31　図14　58	P31　図14　59
P31　図14　59	P31　図14　58

1．発掘調査の経緯と調査経過

（1）発掘調査の経緯

第16回埋蔵文化財調査委員会（平成15年４月21日（月）開催）において、平成15年度埋蔵文化財発掘調査予定（案）として、PFI事業（Private Finance Initiative：公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、運営能力及び技術的能力を活用して行う事業）で進めている本荘南地区発生医学研究センター施設整備事業についても、受注した事業者の依頼がある場合は調査を行うことが説明された。本委員会の席上、この件について埋蔵文化財調査委員会議決により、事業の遂行に伴う埋蔵文化財調査室による発掘調査が承認された。

これを受け、埋蔵文化財調査室は平成15・16・17年度事業として、事業者と協議の上、本事業に係る工事に先立ち立会調査および発掘調査を実施することにした。本調査地点は北側と西側に地下室をもつ旧建物があるが、この部分についても、基礎掘方の間に遺構が存在する可能性から、基礎撤去前に立会調査を行うこととした。結果的に、また、逆Ｌ字状になる調査区の要（コーナー）部分も旧建物が存在したが、掘削の結果、この部分が地中深くまで破壊されていた以外は、遺構が良好に残存することが確認できた（0314調査地点）また、9511調査地点や9801調査地点などの成果から古代や中世の溝や竪穴住居址が存在することが予想された。

（2）調査経過

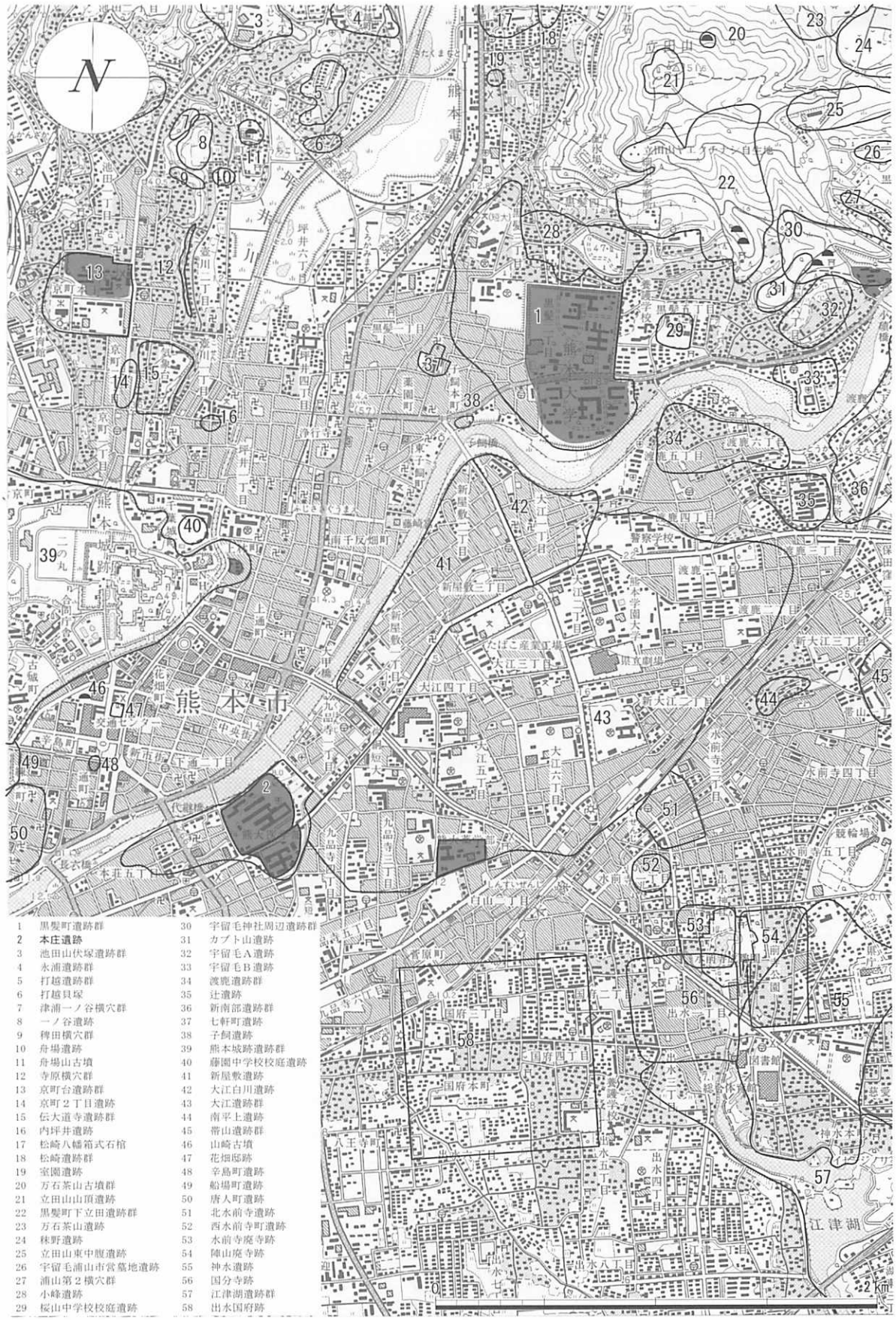
建物建設に先立ち、既存建物（北側と西側）の基礎を撤去する工事が開始されたので、その基礎部分の掘削時に立会調査を行った（0314調査地点）。その結果基礎による破壊をまぬがれた部分から古代と思われる柱穴数個と本調査区につながる中世末の溝１条を検出した。

本体部の発掘調査は2004年４月13日から2004年５月31日まで実施した。本報告の主体はこの本体部分の発掘調査成果に関する報告である。その後2005年５月30日より、本建築物の外溝工事に伴って、６月４・５日、６月14日の３回に分けて立会調査を実施したが、５か所の調査箇所から少量の古代土師器片１個を検出したものの、遺構は何も確認できなかった（2006『年報12』所収）。

2．周辺の遺跡と既往の調査の概要

（1）遺跡の立地と周辺の遺跡

医学部附属病院および医学部がある本荘地区は、本庄遺跡（熊本大学病院敷地遺跡）（熊本市埋蔵文化財地図№8－95）を包括する。本遺跡は黒髪町遺跡と同じく熊本平野を形成する扇状地形の中央を流れる白川の河岸堤防上に位置する遺跡であり、標高は13～12mである。附属病院の所在する白川寄りの地点が標高が高く、南東部（医学部側）へと緩やかに傾斜する地勢である。敷地内を白川より分岐した小河川が暗渠として流れており、古来この一帯は流路を変えながら幾本もの小河川が流れていた可能性が高い。『熊本市中央北地区文化財調査報告書』（熊本市教育委員会1980）によれば、1963年ごろ本大学医学部附属病院の敷地内から須恵器、土師器、布目瓦片類が採集されており、遺跡の存在が確実であるとされ、遺跡としての認定を受けている。しかし、その後本敷地内において学術的な発掘調査は一度も実施されておらず、遺跡の詳細な内容に関しては本調査室における調査が実施されるまで不明であった。しかし、先の報告の中では、東側に隣接する仙崇寺小松原墓地（現在の小松原公園）内においても須恵器片が採集され、遺跡の包含地がより広いことが想定されていた。このため、



1	黒髪町遺跡群	30	宇留毛神社周辺遺跡群
2	本庄遺跡	31	カブト山遺跡
3	池田山伏塚遺跡群	32	宇留毛A遺跡
4	永浦遺跡群	33	宇留毛B遺跡
5	打越遺跡群	34	渡鹿遺跡群
6	打越貝塚	35	辻遺跡
7	津浦一ノ谷横穴群	36	新南部遺跡群
8	一ノ谷遺跡	37	七軒町遺跡
9	稗田横穴群	38	子飼遺跡
10	舟場遺跡	39	熊本城跡遺跡群
11	舟場山古墳	40	藤園中学校校庭遺跡
12	寺原横穴群	41	新屋敷遺跡
13	京町台遺跡群	42	大江白川遺跡
14	京町２丁目遺跡	43	大江遺跡群
15	伝大道寺遺跡群	44	南平上遺跡
16	内坪井遺跡	45	帯山遺跡群
17	松崎八幡箱式石棺	46	山崎古墳
18	松崎遺跡群	47	花畑邸跡
19	室園遺跡	48	辛島町遺跡
20	万石茶山古墳群	49	船場町遺跡
21	立田山山頂遺跡	50	唐人町遺跡
22	黒髪町下立田遺跡群	51	北水前寺遺跡
23	万石茶山遺跡	52	西水前寺町遺跡
24	秣野遺跡	53	水前寺廃寺跡
25	立田山東中腹遺跡	54	陣山廃寺跡
26	宇留毛浦山市営墓地遺跡	55	神水遺跡
27	浦山第２横穴群	56	国分寺跡
28	小峰遺跡	57	江津湖遺跡群
29	桜山中学校校庭遺跡	58	出水国府跡

図１　本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）

（この地図は国土地理院発行１/25000地形図「熊本」を使用したものである）

1995年に道路を挟んで隣接する医学部敷地内において計画されたRI総合センター遺伝子実験施設の建築に先立ち試掘調査を実施したところ、良好な状態で古代の遺構群が検出され、遺跡の広がりを確認することができた。よって、遺跡の範囲は東西500m、南北500mを超えるものと推定される。医学部短期医療短大の位置する九品寺地区は、この遺跡の範囲に入る。本格的な発掘調査が実施されていないため、詳細は不明であるが、敷地中央部における立会調査において古代の遺物包含層が確認されている。今回の調査地点は九品寺地区と北地区の間に位置している。

（2）既往の調査と成果

これまで、医学部附属病院（本荘北地区）および本荘南地区で実施された埋蔵文化財調査室による埋蔵文化財に係る調査は表１のとおりである。

＜本荘北地区＞

医学部校舎建設に伴う発掘調査（9601調査地点）（表１：6－13）

1996年に大学病院構内の北東部で実施された発掘調査である。調査面積は関連する立会調査も含めて約2000㎡である。もっとも古い遺物としては縄文時代後期前葉の土器が出土している。縄文時代の遺物はこれ以外に後期後半の黒色磨研土器片とともに黒曜石の破片などを含む土坑が検出されている。古墳時代の遺構としては、前期の土師器を含む竪穴住居址が1基検出されており、この白川沿いの地点に古墳時代の集落が存在したことを示している。本調査地点をもっとも特徴づけるものは古代の遺構群であり、７世紀末～８世紀中ごろの南北方向の道路址と思われる溝と竪穴住居址群、８世紀後半～９世紀初の区割り溝（堀）と竪穴住居址群である。とくに後者の溝からは「クホンジ」と発音できる「枚本寺」や「佛」などの文字が刻書された燈明皿に使用された土師器坏が多量に出土しており、区画内部にある掘立柱建物址とともに、有力氏族の寺院址を示す可能性もあり、当地域の古代史を語る上できわめて重要な遺構・遺物群が検出されている（1997『年報３』所収）。

病棟（軸）新営工事に伴う発掘調査（9901調査地点）（表１：26）

1999年に大学病院構内の北西部で実施された発掘調査である。発掘調査面積は2405㎡である。調査面積も広く、古墳時代前期から古代にかけての多数の以降が検出されている。調査区北半分を中心に、古墳時代前期の竪穴住居址９基と土坑３基、８世紀初頭（もしくは古墳時代末？）の大型竪穴住居址１基、８世紀後半の竪穴住居址９基、９世紀前半の竪穴住居址３基、掘立柱建物址６棟などが、調査区の南半分を中心として古墳時代末～古代の溝18条が検出されている。南半分は地形的に低くなっており、当時は、現在大学病院構内を東西に流れる水路に沿って、浅い谷や河川が存在したものと思われる。この他、土師器甕に須恵器蓋をかぶせた胞衣壺や中世期と思われる短刀と土師皿を副葬した土壙墓（人骨を伴う）が検出されている。先の9601点で予想された古墳時代前期の遺構が白河沿いに存在することを証明した調査であった（2000『年報６』所収）。

基幹・環境整備第3井戸受水槽設営工事に伴う発掘調査（0006）（表１：33－40）

2000年に大学病院構内の最西北端で実施された発掘調査である。調査面積は関連する立会調査も含めて約300㎡である。上記の9901調査地点の北側、白河沿いの地点にあたる。Ⅰ区からは古墳時代前期の竪穴住居址３基と古代の竪穴住居址１基が検出されている。また、Ⅱ区からはおびただしい量の土師器を投棄した古墳時代前期の溝状遺構が検出されている（2000『年報７』所収）。

附属病院医学部総合研究棟新営工事に伴う発掘調査（0101）（表１：41）

2001年に大学病院構内北部中央で実施された発掘調査である。発掘調査面積は約1700㎡である。調査区は南側へ傾斜しており、中世の遺構検出面の上位には18～19世紀ごろと思われる畑址（畝）が砂

表１　本庄遺跡（本荘北・南地区）で実施された調査一覧（1995－2005年度）

番号	調査期日	調査No.	地　点　名	調査内容	調査面積	時　代	遺　構　・　遺　物	掲載書
1995年度								
1	95·11·6 ～8	9511	（本荘南）医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設及び外溝切り替え	試掘調査	200㎡	古代	古代包含層確認・竪穴住居址、古代土師器・須恵器	年報2
2	95·11·24	9511	（本荘南）医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設工事	立会調査			一部包含層確認・遺構・遺物なし.	年報2
3	95·12·1	9511	（本荘南）医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設に伴う外溝切替	立会調査			包含層確認・遺構・遺物なし.	年報2
4	95·12·4	9517	（本荘南）医学部RI総合センター遺伝子実験施設に伴う樹木移植	立会調査			遺構・遺物なし.	年報2
5	95·12·25 ～96·2·22	9511	（本荘南）医学部RI総合センター遺伝子実験施設建設	発掘調査	976.9㎡	縄文・古代	古代竪穴住居址・掘立柱建物・溝・道路・方形竪穴遺構・土壙、縄文土器・石器・古代土師器・須恵器・鉄器	年報2 本報告Ⅰ
1996年度								
6	96·4·19	9601	（本荘北）医学部校舎建設	試掘調査	33㎡	古代	古代包含層・溝、古代土師器・須恵器	年報3
7	96·8·6 ～9	9601	（本荘北）医学部校舎建設に伴う樹木移植・貯水槽建設工事（1·2·3区）	発掘調査	45.7㎡	古墳・古代	古墳時代前期竪穴住居址・古代竪穴住居址、古墳時代土師器・古代土師器・須恵器	年報3
8	96·8·22 ～27	9601	（本荘北）医学部校舎建設に伴う切り替え道路建設（4区）	発掘調査	37.4㎡	古代	竪穴住居址・柱穴、古代土師器・須恵器	年報3
9	96·8·29 ～30	9601	（本荘北）医学部校舎建設に伴う切り替え道路建設（5区）	発掘調査	28.2㎡	古代	竈址、古代土師器・須恵器	年報3
10	96·10·1 ～9	9601	（本荘北）医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事（6区）	発掘調査	104.3㎡	古代	古代道路・竪穴住居址、古代土師器・須恵器	年報3
11	96·10·11 ～97·1·17	9601	（本荘北）医学部校舎本体工事（本調査区）	発掘調査	1686㎡	縄文・古墳・古代	縄文包含層・古墳土壙・古代道路・竪穴住居址・掘立柱建物・土壙・近代墓地、縄文後期土器・古墳／古代土師器・須恵器・鉄器・石器	年報3
12	96·10·21 ～29	9601	（本荘北）医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事（7·8·9区）	発掘調査	62.5㎡	古代	古代竪穴住居址・竈、古代土師器・須恵器	年報3
13	96·11·12 ～13	9601	（本荘北）医学部校舎建設に伴う排水管切り替え工事（10区）	発掘調査	21.8㎡	古代	古代竪穴住居址、古代土師器・須恵器	年報3
1997年度								
14	97·4.·8	9701	（本荘南）医学部情報リテラシー教育施設電気設備その他の改修工事	立会調査	21㎡		一部包含層を確認・遺構なし、古代土器片	年報4
15	97·5·28	9703	（本荘北）医学部外来臨床研究棟血液製剤管理室取設工事	試掘調査	4㎡		遺構・遺物なし.	年報4
16	97·11·11 ～98·3·31	9707	（本荘北）医学部基礎研究棟屋外配線工事	立会調査	370㎡	古代・近代	近代墓地・古代土壙・柱穴、甕・人骨・墓石等・古代土器.	年報4
1998年度								
17	98·6·26 ～7·2	9801	（本荘南）医学部エイズ学研究センター・動物資源開発センター新営支障配管替工事	立会	2.4㎡	古代	遺構・遺物認められず。	年報5

18	98·7·6	9801	（本荘南）同樹木伐採工事	立会			遺構・遺物なし	年報5
19	98·7·28 ～9·10	9801	（本荘南）医学部エイズ学研究センター・動物資源開発センター新営工事	発掘調査	972㎡	縄文・古代・近世	竪穴住居址・掘立柱建物・溝・土壙	年報5
20	98·9·28	9805	（本荘北）大学病院病棟新営工事	試掘調査	10㎡	古墳・古代	古墳・古代土器	年報5
21	98·9·29	9806	（本荘北）大学病院中央診療棟新営工事	試掘調査	5㎡		河成砂礫層を検出。遺構・遺物なし。	年報5
22	98·9·30	9807	（本荘北）大学病院薬剤部注射患者毎セット支給室等取設工事	試掘調査	2㎡	古代	遺物包含層・柱穴検出。古代土器片。	年報5
23	98·10·28 ～11·20	9807	（本荘北）大学病院薬剤部注射患者毎セット支給室等取設工事	発掘調査	175㎡	古代	縄文土器・石鏃等 古代竪穴住居址・土壙・溝・近代溝	年報5
24	98·11·2	9801	（本荘南）医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター関連図書館解体工事	発掘調査	139㎡		削平のため存在せず.	年報5
24	98·12·17 ～99·1·10	9805	（本荘北）大学病院病棟新営に伴う支障配管替工事	立会	333㎡	古代	竪穴住居址.古代土器片	年報5
25	99·3·10 ～31	9801	（本荘南）医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営に係る配管切替工事	立会調査	57.5㎡	古代	一部包含層・遺構面確認（ピット）・遺物なし	年報6
1999年度								
26	99·4·5 ～8·31	9901	（本荘北）病棟（軸）新営工事	発掘調査	2,405㎡	縄文・古墳・古代・近代	縄文時代石器・玉・古墳時代住居址・溝・土師器・古代住居址・柱穴溝・土壙墓・土師器・須恵器・鉄器・胞衣壺・土鏡・近代溝.	年報6
27	99·6·14 ～7·14	9902	（本荘南）医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営電設工事立会	立会調査	40㎡	古代	古代柱穴、溝、遺物を少量検出	年報6
28	99·7·19 /26	9904	（本荘南）医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営基礎工事立会	立会調査	2㎡	古代	遺構・遺物なし	年報6
29	00·1·25	9910	（本荘北）血液照射管理室増改築試掘	試掘調査	2㎡		撹乱著しく、遺構・遺物ともに確認できず	年報6
30	00·3·2	9913	医学部液化窒素供給設備新設工事立会	立会調査	7.84㎡		遺構・遺物なし	年報6
31	00·3·16 ～17	9914	（本荘南）さく井設備工事立会	立会調査	25㎡		遺構・遺物なし	年報6
2000年度								
32	00·4·17	0003	（本荘北）附属病院格納庫移設工事	試掘調査	5.8㎡		遺構・遺物なし	年報7
33	00·11·6 ～22	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備第3井戸 入水槽設営工事（Ⅰ区）	発掘調査	119.4㎡	縄文・古墳 古代	縄文時代石器・古墳時代柱穴・住居址・土師器・須恵器	年報7
34	00·11·22	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備第1井戸入水槽設営工事	試掘調査	4㎡	近・現代墓地	近・現代墓石・墓壙・遺骨	年報7
35	00·11·27 ～29	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備給水管配管工事	立会調査	85.5㎡		遺構・遺物なし	年報7
36	00·12·4 ～13	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備排水管配管工事（Ⅱ区）	発掘調査 立会調査	32㎡	縄文・古代	土壙状遺構・縄文時代石器・土師器・ガラス玉・鉄器・須恵器	年報7
37	00·12·8 ～01·1·10	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備電気設営工事（Ⅳ区）	立会調査	31.5㎡	古代	遺構なし.土師器数点	年報7

38	00·12·19 ～20	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備排水管配管工事（Ⅲ区）	発掘調査 立会調査	20.4㎡	古代	住居址・土師器	年報7
39	00·12·26 ～28	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備給水管配管工事	立会調査	100.7㎡	近・現代墓地	近代墓壙・墓石・遺骨	年報7
40	01·1·29	0006	（本荘北）附属病院基幹・環境整備排水管配管工事（Ⅴ区）	立会調査	7㎡		遺物・遺構なし	年報7
2001年度								
41	01·4·9 ～7·3	0101	（本荘北）附属病院医学部総合研究棟新営工事	発掘調査	1733.75㎡	古墳・古代・近世・近代	住居址・溝・畑址・墓鉄鏃・土師器・須恵器	年報8
42	01·7·4 ～10·29	0104	（本荘北）附属病院基幹・環境整備（共同溝設置）	発掘調査	1,023.8㎡	縄文・弥生・古墳・古代	住居址・溝・縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器・鉄鏃・青銅器	年報8
43	01·9·4	0111	（本荘南）医学部キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	2.78㎡		遺構・遺物なし	年報8
44	01·9·14 /10·1	0113	（本荘南）医療技術短期大学キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	105㎡		遺構・遺物なし	年報8
45	01·9·17	0114	（本荘北）附属病院キャンパス情報ネットワークその他工事	立会調査	38㎡		遺構・遺物なし	年報8
46	01·10·22 ～02·2·19	0116	（本荘北）附属病院基幹・環境整備（A~D地区・ボイラー設備更新等）	立会調査	426.4㎡		遺構・遺物なし	年報8
47	01·12·8～ 02·2·9	0117	（本荘北）医学部総合研究棟新営機械設備工事	立会調査	133.1㎡	古代	住居址・柱基礎土師器・須恵器	年報8
48	02·2·25～ 3·20	0119	（本荘北）医療用ガス供給設備室取設工事	発掘調査	205.8㎡	縄文・古墳・古代	住居址・溝・掘立柱建物址・縄文土器・土師器・須恵器・鉄鏃	年報8
49	02·3·18	0120	（本荘北）総合研究棟周辺環境整備工事	立会調査	1492.7㎡		遺構・遺物なし	年報8
50	02·3·18	0121	（本荘北）附属病院西病棟（仕上Ⅱ）新営工事	立会調査	1076.4㎡		溝？・遺物なし	年報8
51	02·3·22	0122	（本荘北）附属病院西病棟電気設備工事（仕上Ⅱ）	立会調査	54㎡		遺構・遺物なし	年報8
2002年度								
52	02·10·7	0211	（本荘北）医学部総合研究棟新営工事（渡り廊下部分）	立会調査	32㎡		遺構・遺物なし	年報9
53		0213	（本荘北）総合研究棟新営電気設備工事	立会調査	216㎡		遺構・遺物なし	年報9
54	03·2·7	0214	（本荘北）基幹環境整備外灯工事	立会調査	216㎡		遺構・遺物なし	年報9
55	03·3·7	0217	（本荘南）体育部室（プレハブ）新設工事	立会調査	3㎡		遺構・遺物なし	年報9
56	03·3·11	0219	（本荘南）塀新設工事	立会調査	36㎡		遺構・遺物なし	年報9
57	03·3·26	0220	（新南部）教育学部新南部農場竹藪・畑地境界掘り	立会調査	40㎡	古代	住居址・柱穴・溝、古代土師器・須恵器	年報9
2003年度								
58	03.6.2 ～7.2	0304	（本荘北）基幹・環境整備工事	発掘調査	333.5㎡	縄文・古墳・弥生・古代	住居址・溝・縄文石器・弥生土器・土師器・近代磁器	年報10
59	03.9.4 ～9.8	0306	（本荘南）医療技術短期大学部北側駐車場環境整備工事	立会調査	539.2㎡		遺構・遺物なし	年報10
60	03.10.2	0309	（本荘南）動物慰霊碑新設工事	立会調査	4.02㎡		遺構・遺物なし	年報10

61	03.11.17 ～28	0310	（本荘南）発生医学研究センター施設整備事業	立会調査	557㎡		遺構・遺物なし	年報10
62	03.12.9		（本荘南）発生医学研究センター整備事業本体工事	試掘調査	26.58㎡			年報10
63	03.12.10	0311	（本荘北）中央診療棟（軸）設営工事	立会調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報10
64	04.1.23 ～27	0314	（本荘南）医学部Ｂ棟・Ｅ棟・ＲＩ・旧動物舎取壊工事	発掘調査	1,567㎡	古代	溝・ピット・土師器	年報10
65	04.1.30	0315	（本荘北）東側駐車場整備工事	立会調査	30.7㎡		遺構・遺物なし	年報10
66	04.2.23	0317	（本荘北）偕樹の木移植	立会調査	16㎡			年報10
67	04.3.4	0318	（黒北）附属養護学校門横市道水道修理工事	立会調査	2㎡		遺構・遺物なし	
68	04.3.5 ～9	0314	（本荘南）医学部Ｂ棟・Ｅ棟・ＲＩ・旧動物舎取壊工事	発掘調査	1,567㎡	中世・古代	溝・ピット・陶磁器・土師器	年報10
69	04.3.11	0324	（本荘南）外灯設備工事	立会調査	4㎡		遺構・遺物なし	
70	04.3.11	0325	（本荘南）外灯設備工事	立会調査	11.2㎡		遺構・遺物なし	
2004年度								
71	04･4･9		本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事	試掘調査	10.44㎡	古代	溝？・土師器	年報11
72	04･4･13 ～5･31	0402	本荘団地南地区発生医学研究センター建設工事	発掘調査	1241.75㎡	古代	土師器・須恵器・縄文土器	年報11
73	04･5･14 04･10･14	0403	本荘団地北地区中央診療棟（軸）設営工事	立会調査	150㎡	古代	土師器	年報11
74	04･6･28		本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備工事	試掘調査	10㎡	古代・縄文	土師器・縄文土器・土壙	年報11
75	04･8･17 ～19･23 04･9･3 04･9･14 ～22 05･1･27～	0411	本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備（ポンプ室・ＲＩ実験棟取壊・ガス切替・水道プラグ止・周辺設備関連）工事	立会調査 発掘調査	420㎡	古代・縄文	土師器・須恵器・縄文土器・竪穴住居址・溝・ピット	年報11
76	04･9･16	0412	本荘団地北地区附属病院都市ガス漏配管修理工事	立会調査	5.7㎡		遺構・遺物なし	年報11
77	04･9･21	0416-1	本荘団地北地区附属病院台風被害による倒木起し	立会調査	8㎡		遺構・遺物なし	年報11
78	04･9･21	0416-2	本荘団地南地区医学部台風被害による倒木起し	立会調査	1.5㎡		遺構・遺物なし	年報11
79	04･10･22	0419	本荘団地北地区附属病院福利厚生施設引込配線工事	立会調査	2.23㎡		遺構・遺物なし	年報11
80	04･11･1 ～28	0411	本荘団地北地区（医病）基幹・環境整備	発掘調査	551㎡	縄文・古墳・古代	竪穴住居址・掘立柱建物址・溝・畑・土師器・須恵器・縄文土器・鉄鏃・勾玉・石器	年報11
81	04･12･6	0422	本荘団地北地区中央診療棟（軸）工事	立会調査	66.39㎡		遺構・遺物なし	年報11
82	04･1･11	0424	本荘団地北地区ボンベ庫取設工事	立会調査	14.5㎡		遺構・遺物なし	年報11
83	05･2･4、 8～9	0426	本荘団地北地区防火水槽取設工事	試掘・発掘調査	84㎡	中～近世	土師器・須恵器・馬骨・胴銭	年報11
84	05･2･28、 3･14、4･1	0430	本荘団地南地区駐車場環境整備工事	立会調査	1.846㎡			
85	05･3･24	0442	（本荘北）附属病院福利厚生ガス管工事	立会調査	9.18㎡		遺構・遺物なし	

86	05·3·24	0443	（本荘北）中央診療棟連絡棟Ⅱ管工事	立会調査	0.8㎡		遺構・遺物なし	
2005年度								
87	05·4·19 ～4·20	0501	本荘団地南地区駐車場環境整備工事（追加）	立会調査	28㎡	古代	土師器・須恵器	年報12
88	05·4·27	0502	医学部附属病院排水貯留槽ポンプアップ排水管補修	立会調査	4㎡		遺構・遺物なし	年報12
89	05·5·30, 6·4～ 6·5 6·14	0503	（本荘）発生医学研究センター施設整備事業（外構）	立会調査	2337.2㎡		遺構・遺物なし	年報12
90	05·6·9 ～6·10 6·12	0505	（医病）基幹・環境整備（設備・曳き家前）	立会調査	55.96㎡		遺構・遺物なし	年報12
91	05·6·21	0507	（本荘中）敷地境界ブロック改修工事	立会調査	10.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
92	05·7·13 ～7·14 7·19 ～9·30	0509	（医病）基幹・環境整備（曳き家・移動先）	発掘調査	1147㎡	縄文・弥生 古墳・古代	住居址・溝・土師器・須恵器	年報12
93	05·7·19	0511	本荘団地北地区雨水配管補修	立会調査	7.6㎡	古代	包含層・土師器・須恵器	年報12
94	05·9·1, 9·20	0517	（医病）基幹・環境整備（曳き家・現在地）	立会調査	1337㎡		遺構・遺物なし	年報12
95	05·9·13	0518	附属病院都市ガス設備改修工事	立会調査	29㎡		遺構・遺物なし	年報12
96	05·9·15	0520	本荘団地北地区入退院棟前スロープ取設工事	立会調査	17.18㎡		遺構・遺物なし	年報12
97	05·9·15	0521	本荘団地（北地区）台風倒木引起し	立会調査	2.355㎡		遺構・遺物なし	年報12
98	05·9·16	0522	医学部附属病院管理棟屋外給水バルブ取替工事	立会調査	2.25㎡		遺構・遺物なし	年報12
99	05·9·27	0523	（医病）中央診療棟（仕上）	立会調査	57.6㎡		遺構・遺物なし	年報12
100	05·10·11	0524	本荘団地（北地区）駐車ゲート整備工事	立会調査	261.33㎡		遺構・遺物なし	年報12
101	05·10·25	0529	（医病）外来臨床研究棟玄関前環境整備工事	立会調査	381.12㎡		遺構・遺物なし	年報12
102	05·12·14	0536	医学部弓道場設備工事	立会調査	82.73㎡		遺構・遺物なし	年報12
103	05·12·22	0539	本荘団地（中地区）ゴミ置場取設	立会調査	48.51㎡		遺構・遺物なし	年報12
104	06·1·10, 1·25	0540	本荘団地（南地区）埋設ガス管改修工事	立会調査	61.8㎡		遺構・遺物なし	年報12
105	06·1·27	0542	（医病）基幹・環境整備（曳き家・移動経路）	立会調査	1464㎡		遺構・遺物なし	年報12
106	06·2·13	0543	附属病院職員厚生施設園庭整備	立会調査	338.9㎡		遺構・遺物なし	年報12
107	06·2·16, 3·13	0544	（医病）基幹・環境整備（設備・曳き家後）	立会調査	39㎡		遺構・遺物なし	年報12
108	06·3·13	0548	本荘団地（中地区）渡り廊下設置	立会調査	5.5㎡		遺構・遺物なし	年報12
109	06·3·24	0549	（医病）外来化学療法センター屋外汚水配管工事	立会調査	1.92㎡		遺構・遺物なし	年報12

層に覆われて２面以上存在していた。この堆積は南側へ行くに従い厚くなっており、先の9901調査地点のところで説明したように、現在の水路はこの旧谷の痕跡と思われる。Ⅲ面で検出した遺構は、近世遺構の座位で埋葬された土壙墓（人骨を伴う）１基、短刀と砥石を副葬した中世期と思われる土壙墓（人骨を伴う）１基、古代の溝３条、竪穴住居址２基、掘立柱建物址１基、古墳時代前期の竪穴住居址１基である。縄文時代後期後半の土器が若干出土している（2002『年報８』所収）。

附属病院基幹・環境整備（共同溝設置）（0104調査地点）（表１：42）

2001年に大学病院敷地の北西部を中心にした地点で実施された発掘調査である。発掘調査面積は約1000㎡である。検出された主な遺構は、弥生時代前期の環濠と思われる溝１条、古墳時代前期の竪穴住居址５基、同期の区画溝と思われる幅３ｍ、深さ1.5ｍ以上の溝３条、古代の竪穴住居址14基、掘立柱建物址１基、地鎮遺構１基、井戸址１基である。本地点の調査成果は、いずれの時代に関しても重要な知見をもたらした。弥生時代前期の溝はこの一帯に同期の環濠集落が存在した可能性を示している。残念ながら北側は白川、南側は病院内建物群によってすでにその大部分が破壊されているが、わずかながらの証拠であっても、熊本平野における弥生時代の集落変遷を語る上できわめて重要な資料と考えられる。また、古墳時代の前期の集落群も詳細な機能は不明であるが、0006地点でも検出された、多量の土師器を投棄した区画溝、そして竪穴住居址群は、これも前期古墳の存在しない白川下流域の古墳時代の集落変遷を語る上で貴重な資料である。古代の井戸址の存在も、単なる農民集落という性格ではない、氏族居館や官衙関連施設などを想像させる遺構であり、今後重要な資料となろう（2002『年報８』所収）。

医療用ガス供給設備室取設工事（0109調査地点）（表１：48）

2001年に大学病院敷地の最北西端の0006調査地点の東側で実施された発掘調査である。発掘調査面積は約200㎡である。縄文時代、古墳時代、古代時代の住居址、溝、掘立柱建物址などの遺構や縄文土器、土師器、須恵器、鉄鏃などが出土したとあるが、詳細は不明である（2002『年報８』表２参照）。

基幹・環境整備工事に伴う発掘調査（0304調査地点）（表１：58）

2003年に大学病院敷地の北部中央西よりの地点で実施された発掘調査である。発掘調査面積は約330㎡である。0104調査地点の東部が本調査地区の西側と南北に重なっており、0104調査地点で検出された弥生時代前期の溝の続きが検出されている。さらに、この地点でも溝底に多量の土師器を含む古墳時代前期の区画溝１条が検出されている。古代の遺構としては、掘立柱建物址１棟、竪穴住居址２基が検出されている（2004『年報10』所収）。

基幹・環境整備工事に伴う発掘調査（0411調査地点）（表１：75・80）

2004年に大学病院敷地の南西部の地点で実施された発掘調査である。発掘調査面積は関連する立会調査も含めて970㎡である。遺構検出面は２面あり、上面では近世～近代の溝４条と柱穴群、古代の畑址（畝址）が、下面では古代の溝３条、掘立柱建物址４棟、竪穴住居址４基、古墳時代の竪穴住居址３基が検出されている。古墳時代の竪穴住居群の検出はこの地域では初めてであり、５世紀中ごろの集落を示す例としてはきわめて貴重である。また古代溝は9601調査地点で検出された区画溝と同じ構造をもっており、それらとどのような関係にあったのか、興味の持たれるところである（2005『年報11』所収）。

基幹・環境整備工事（曳き家・移動先）に伴う発掘調査（0509調査地点）（表１：95）

2005年に大学病院敷地の南西部、0411調査地点の北側隣接地で行われた発掘調査である。発掘調査面積は約1150㎡である。検出された遺構は、古墳時代では、５世紀前半代の竪穴住居址７基、５世紀後半～６世紀の溝１条、古代では、７世紀後半～８世紀後半代の竪穴住居址10基、８世紀後半～９世

紀前半代の溝２条、９世紀後半～12世紀の溝１条、近世・近代では、墓８基、溝４条がある。縄文時代の土坑も検出されている。調査区を斜めに走る古代溝は、0411調査地点から連なるものである。また、この調査は、0411調査地点で検出されていた５世紀代の竪穴住居址群が北側へより濃密に分布することを明らかにした点でも重要である（2006『年報12』所収）。

＜本荘南地区＞

医学部 RI 総合センター遺伝子実験施設建設に伴う発掘調査（9511調査地点）（表１：1－5）

1995年に医学部構内の南西部で実施された発掘調査である。調査面積は関連する立会調査も含めて約1200㎡である。本調査区でもっとも古い遺物は縄文時代後期後半の黒色磨研磨土器とそれに伴うと考えられる打製石斧や石皿などの石器であり、未検出ではあるが、住居址があった可能性もある。古墳時代後期に属する可能性のある溝２条、７世紀末～8世紀中ごろの溝１条と竪穴住居址２基、８世紀後半～９世紀初の竪穴住居址や土坑６基、道路状遺構１基、溝数条、中世（16世紀末以降）１条、近代溝１条などが検出されている（2003『本報告Ⅰ』所収）。

医学部エイズ研究センター・動物資源開発研究センター建設に伴う発掘調査（9801調査地点）（表１：17・19・24・25・27・28）

1998年に医学部構内の北東部で実施された発掘調査である。調査面積は関連する立会調査も含めて1200㎡である。本調査区でもっとも古い遺物は、わずかに縄文時代後期末の黒色磨研磨土器と打製石器や石鏃などが包含層から検出されている。古墳時代末以降は多くの溝が検出されている。溝は７世紀初のほぼ東西方向をとる溝１条、７世紀後半代の南北方向の溝２条、８世紀後半～９世紀初の同方向を示す溝５条、近代のやや東へ触れる溝１条とそれに敷設された溝１条がある。これにより、古代初において南北方向を基軸とする区画が成立していることがわかる。８世紀後半～９世紀初には調査区北部で竪穴住居址が検出されている。また調査区の東端で１棟の掘立柱建物址が検出されている。８世紀後半代以降のものと推定されている。９世紀前半代の土師器坏を副葬した火葬墓らしきものが１基発見されている。30～33号溝からは硯片や平瓦片、鞴羽口片などが検出されており、近くに鋳造関係の工房址などが在した可能性が想定されている（1999『年報５』所収）。

以上のように、これまでの調査成果をみると、本庄遺跡では、縄文時代後期中葉から遺跡が形成されていることがわかる。縄文時代の遺構や遺物は北地区と南地区の両地点に散漫ではあるがまんべんなく分布している。次の弥生時代前期には北地区の白川沿いにおいて環濠の一部が検出されている。すでに破壊が著しくその規模は不明であるが、次の古墳時代前期の区画溝と竪穴住居址をもつ集落址とともに、白川中流域でこれまで不明であった時期の遺構群が検出されている点で重要である。さらに古墳時代中期の集落跡は南への広がりを見せる。この時期の遺構も局所的であり、今後の周辺部での調査が重要となってくる。古墳時代までの遺構の密度をみると古い時期ほど白川沿いに濃い分布をもつことが明らかになっている。

古代においても北地区できわめて重要な発見が相次いでいる。道路址や寺院址の遺構の存在がそれである。しかし、南地区の少ない調査でも当該期の遺構群は存在しており、今後は一帯における道路や建物址などの配置を検討し、どのような機能差をもった建物群が存在したのかが今後の調査の焦点となるものと思われる。

3．（本荘南）発生医学研究センター施設整備事業に伴う発掘調査（0314調査地点）

（1）調査の目的と経過

a．調査地と調査経緯

本調査地点は2003年度に開始されたPFI事業による発生医学研究センター建設の整備事業の一環として実施された基礎研究棟B棟と基礎研究棟E棟の解体工事に伴う発掘調査である。隣接地で実施した1998年度の医学部エイズ研究センター建設に伴う図書館の解体工事の際は、基礎撤去後に現場において埋蔵文化財の有無を確認したが、このときは基礎撤去に伴いすでに削平されていた。このため、今回は建物上物の撤去後、基礎部分において試掘を行い、埋蔵文化財の有無を確認することとした。2003年12月23日、B棟解体時に試掘を実施した。この部分は地下室となっていたが、基礎掘削部の間に削平をまぬがれた部分が残存していることを確認することができた。このため、基礎上部の撤去後に重機を入れて確認したところ、一部に遺構が残存していることが判明したため、すぐに発掘調査に切り替え、調査を実施した（図3）。

E棟においても、B棟での経験から、遺構が残存する可能性が高いため、施工業者と協議の上、基礎上部撤去後の3月5日に試掘を実施した。この結果、一部において遺構を確認したため、発掘調査に切り替えた。B棟部分をⅠ区、E棟部分をⅡ区と呼称し、遺構番号は連続して付した。発掘した調査面積は、Ⅰ区が700㎡、Ⅱ区が300㎡である。

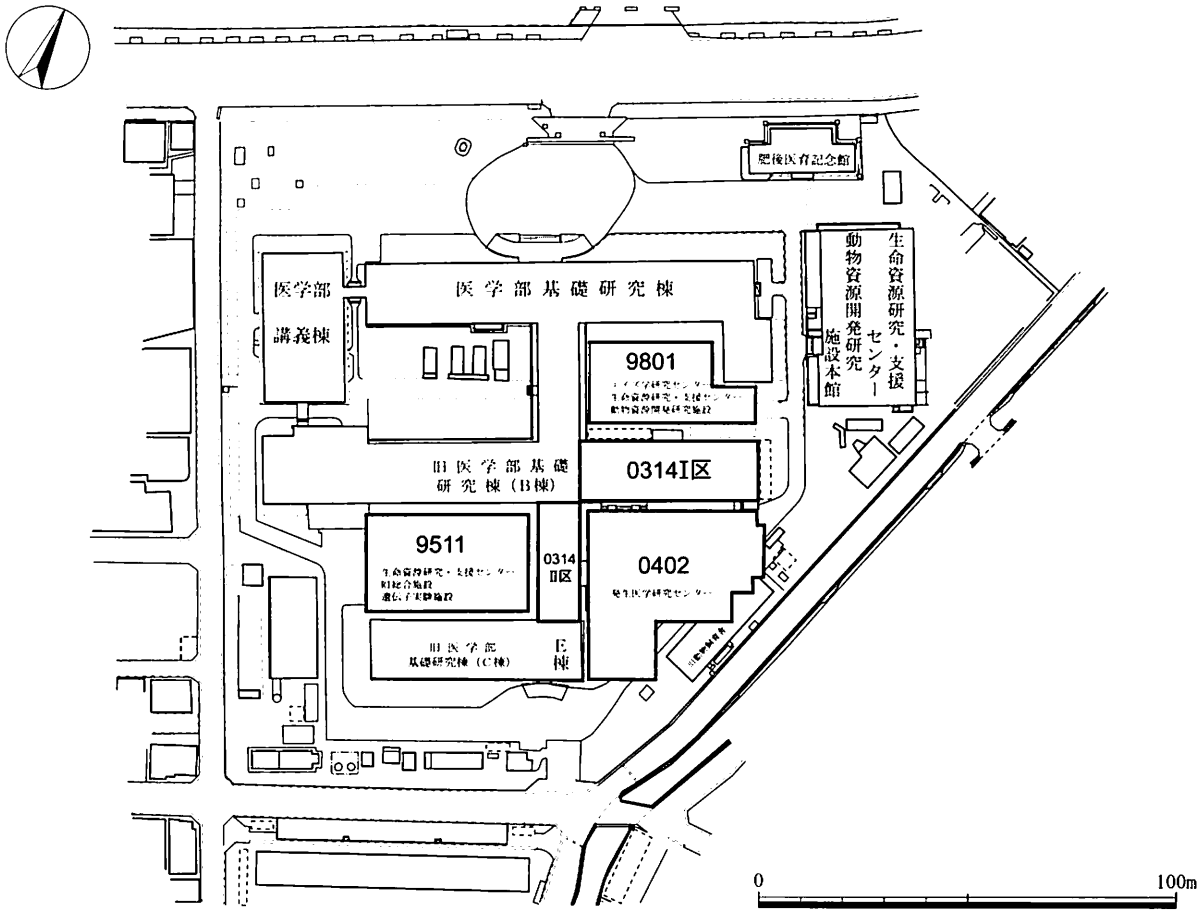


図2　PFI事業関連の調査地点配置図（1/2000）

b．調査の経過

2004年1月23日　Ⅰ区　重機で表面の攪乱土を除く。発掘調査開始。

2004年1月27日　Ⅰ区　写真撮影後、発掘調査終了

2004年3月5日　Ⅱ区　重機で表面の攪乱土を除く。発掘調査開始。

2004年3月9日　Ⅱ区　写真撮影後、発掘調査終了

c．調査の組織

調　査　員：小畑弘己

事 務 担 当：坂元紀乃

発掘作業員：勝野義勝・白石美智子・溜渕俊子・林田恵子・早田咲百合・番山明子・松井昭子・森川征子・森川護

整理作業員：江口　路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・古閑満代・首藤優子・末吉美紀・溜渕俊子・林田恵子・早田咲百合・増井弘子・山嵜早苗

（2）調査区の基本層序

Ⅰ区・Ⅱ区ともいずれの調査区も地表下２ｍほど削平されていたが、黄褐色の地山（遺構面）と称する土壌は残存していた。しかし、10cmほど掘り下げるとシルト質が強くなり、灰黄褐色～淡緑灰色のシルト・砂層へと移行する。このため、堆積層の上部がかなり削平されていることがわかる。もっとも深い溝（５号溝）が硬いシルト層を貫き、その底は灰褐色粗砂層まで達していた。

（3）検出遺構（図３）

＜遺　構＞

＜溝＞

５号溝

Ⅱ区中央部を東西に走る幅２ｍ、深さ60cm の溝である。断面形は台形状を呈する。16世紀後半の明染付碗や陶器擂鉢の破片が古代の土器片などとともに出土した。方向と位置関係から9511調査地点の北西隅で検出された10号溝に繋がるものと思われる。溝の形状および出土遺物の種類も一致する。

６号溝

Ⅱ区中央部を東北東から西南西方向に走る幅0.5m、深さ７cm の小溝である。遺物は土師器・須恵器の小片があるのみであるが、9511調査地点の55溝に連続する。断面形は浅いレンズ状を呈する。８世紀後半代の住居址に切られていることから、時期はそれより遡る可能性がある。

７号溝

Ⅱ区北側を北東から南西方向に走る断面形逆台形の幅1.0m、深さ15cmの溝である。土師器小片が出土した。位置関係から9511調査地点の19号溝に連続するものと思われる。9511地区での切り合い関係から、６号溝より新しいものと思われる。

１号溝

Ⅰ区中央部西よりの部分で検出した幅0.4m、深さ５cmの断面形が浅いレンズ状をなす溝である。方向は南北方向に走る。9801地点の状況からみて同地点の30号～32号溝と一連の性格をもつものと思われるが、北側に延長した部分の9801点の調査区内には溝の延長部と思われる部分は検出されていない。出土遺物がなく、時期の詳細は不明であるが、覆土の状況から古代のものと思われる。

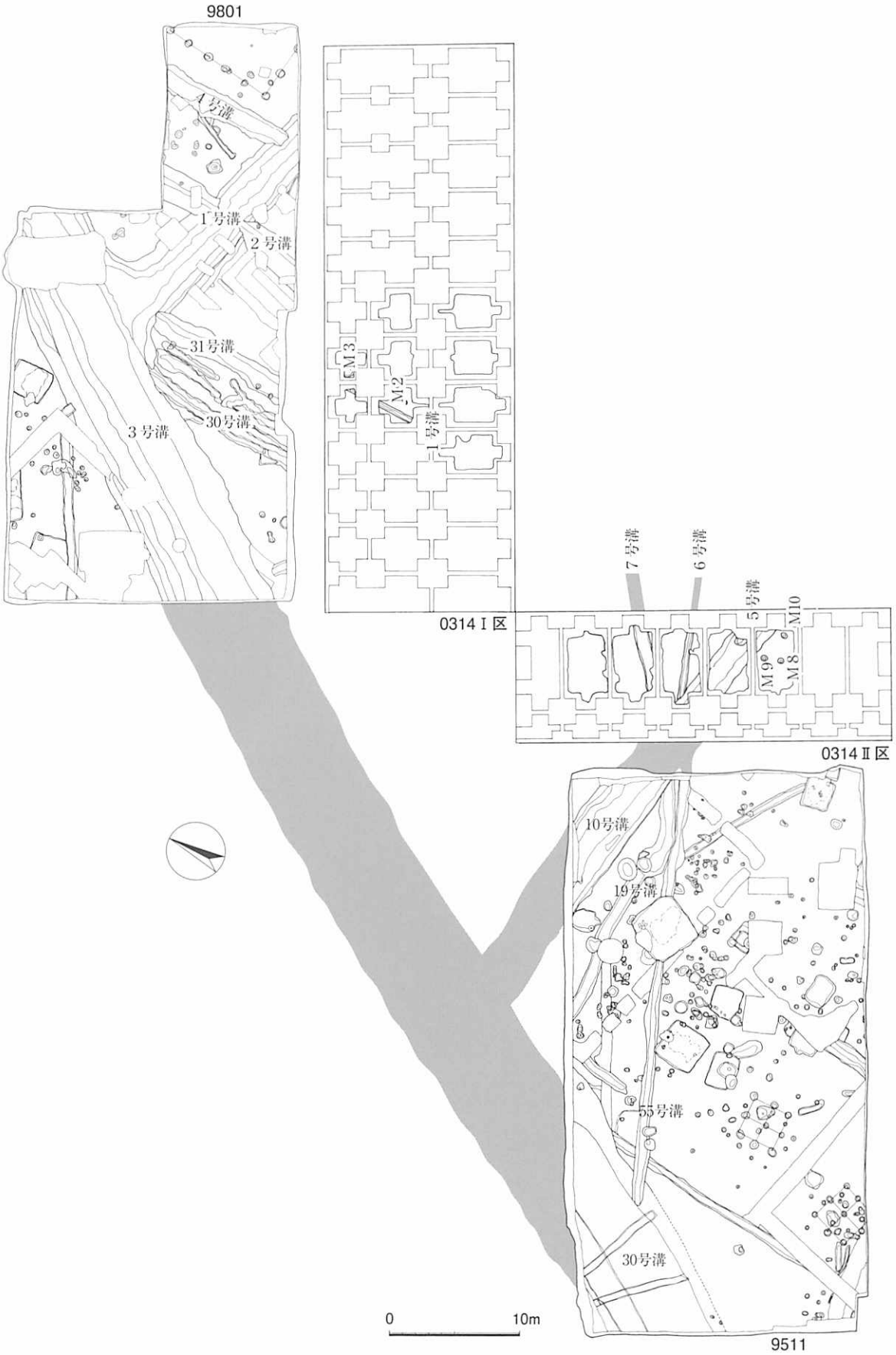


図３　0314調査地点遺構配置実測図（1/450）

＜ピット＞

このほか、Ⅰ区において２個、Ⅱ区において３個のピットを検出した。Ⅱ区において検出した３個のピット（Ｍ８・Ｍ９）は一連の構造物である可能性もある．遺物は１点も検出できていないが、覆土は黒褐色であり、本地点でも古い部類に入り、古代以前の時期が考えられる。

（4）まとめ

今回の調査によって、医学部敷地内の東南側部分においても遺構が良好に残っていることが判明した。よって、発生医学研究センター本体部においても遺構が存在する可能性が大きくなった。

これ以外に、今回の調査成果は、調査法に関する既存概念の訂正という点で意味があった。つまり、本地域においては、既存建物部分であっても、地表下２ｍ前後であれば、遺構が削平を一部免れて残存していることが明らかになった点にある。これは、今後、建物新設のみならず、既存建物の解体に際して基礎を撤去する際には、必ず埋蔵文化財の有無を確認する必要があることを実証したもので、今後の学内整備の計画の際に留意すべき点である。

4．（本荘南）発生医学研究センター施設整備事業に伴う発掘調査（0402調査地点）

（1）調査の目的と経過

a．調査地と調査経緯

本調査は発生医学研究センター本体部に係る発掘調査である。調査予定地の西側と北側にある基礎研究棟Ｂ棟・Ｅ棟の地下室部分の発掘調査（0314調査地点）の成果から、遺構の残り具合は良好と考えられた。一次掘削の後、重機を入れて撹乱層の除去を行った。その結果、調査区の西半分中央は旧建物の基礎により遺構が破壊されていたため、この部分を土置き場とした。建物本体部の発掘調査面積は撹乱部分も含め1241.75㎡である。

b．調査の経過

2004年４月13日　作業員投入。発掘調査開始。
2004年４月14日　撹乱層除去。
2004年４月19日　各遺構平面図実測開始。
2004年５月11日　各溝土層断面図実測開始。
2004年５月18日　調査区東南壁実測開始。
2004年５月21日　現地説明会開催。
2004年５月21日　竪穴住居址群ほか遺物出土状況実測開始。
2004年５月30日　全体写真撮影。
2004年５月31日　発掘調査終了

c．調査の組織

調　査　員：小畑弘己
事 務 担 当：前田知聖
発掘作業員：稲本佳子・岡田イツ代・押方富江・河野義勝・黒木重信・黒木タケ子・小細工洋子・白石美智子・高松北子・溜渕俊子・山嵜早苗・西　信二・林田恵子・早田咲百合・番山明子・福田久美子・堀川貞子・前田和子・前田日出男・松井昭子・松本和徳・桃井哲夫・森川征子・森川護・森田登
整理作業員：江口　路・鬼塚美枝・小山正子・古賀敬子・古閑満代・首藤優子・末吉美紀・溜渕俊子・早田咲百合・増井弘子・山嵜早苗

（2）調査区の基本層序（図４）

本調査地点の基本層序は、地表下80～100cm ほどは現代の撹乱・埋土である。その下部は地表下約130cm までほぼ水平堆積をする以下の12枚の地層に分離できる。

１層：暗赤褐色土層（Hue5YR3/2）　厚さ15～20cm。
２層：黒褐色土層（Hue10YR2/2）　厚さ20cm。
３層：黒褐色土層（Hue10YR2/3）　厚さ８cm。
４層：にぶい黄褐色土層（Hue10YR4/3）　厚さ20cm。ほぼ調査区全体に堆積する。
５層：褐色土層（Hue10YR4/4）　厚さ８cm。部分的にしか堆積していない。ブロック状のニガが混じる。

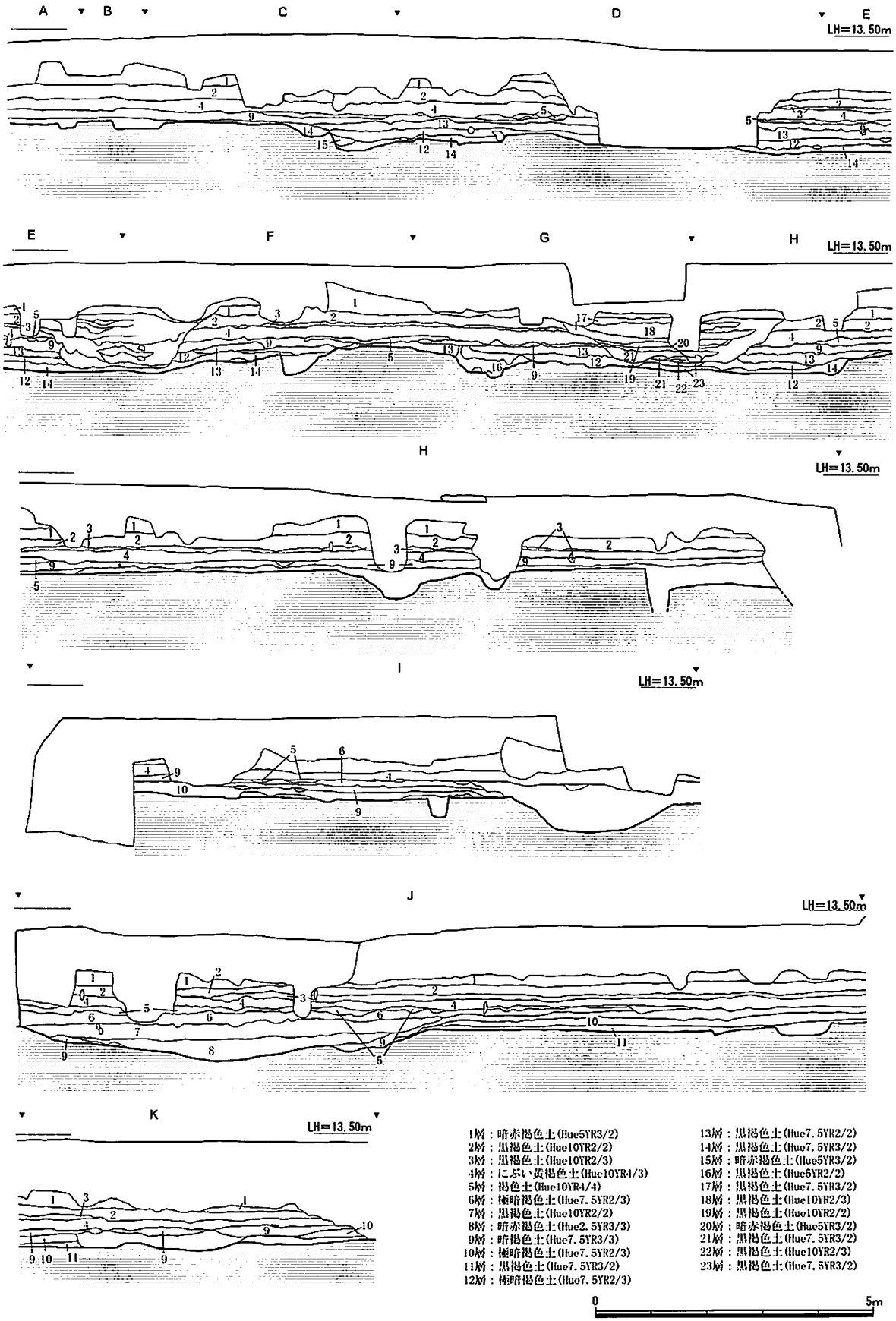


図４　0402調査地点調査区土層断面実測図（1/100）

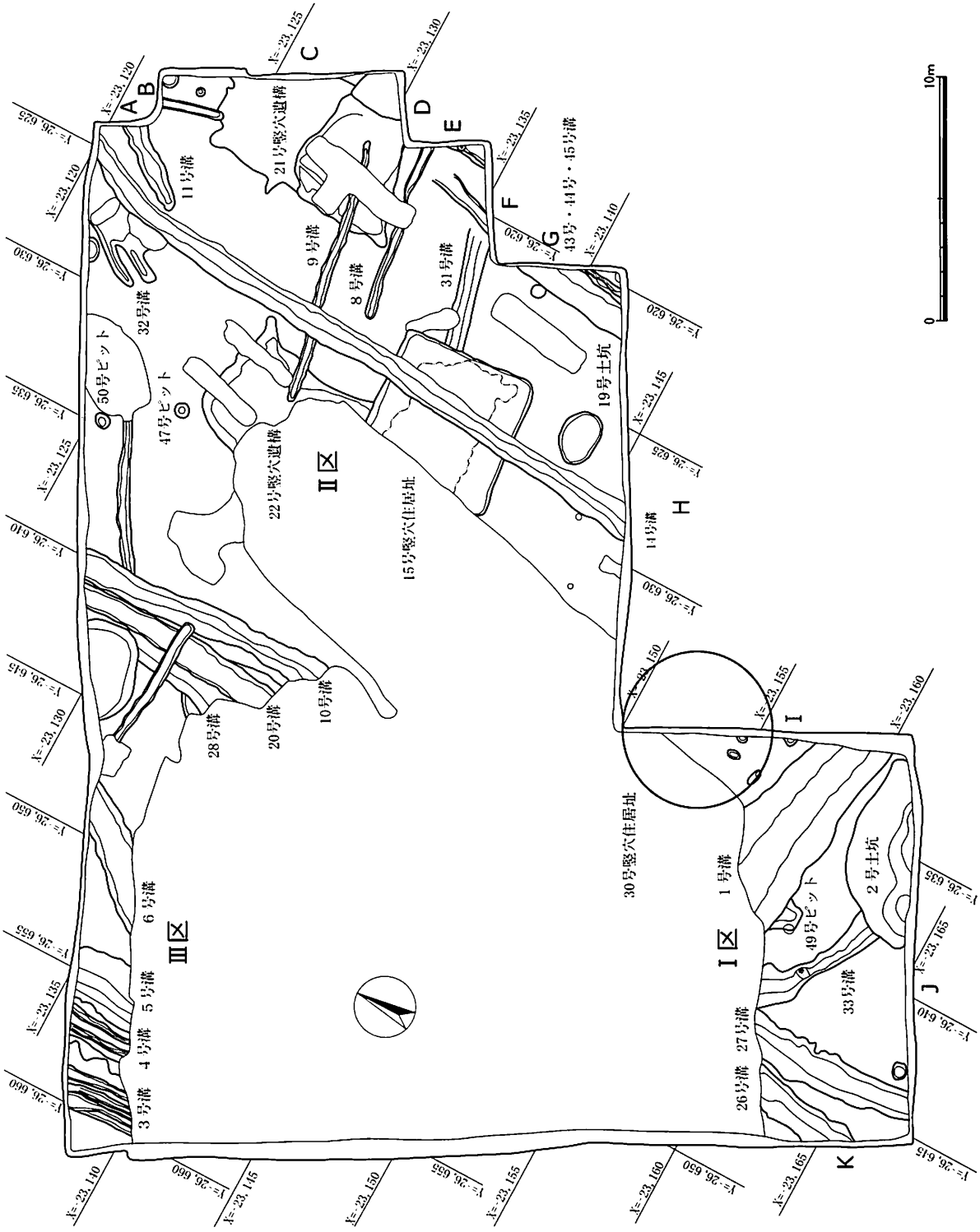


図５　0402調査地点遺構配置図（1/250）

６層：極暗褐色土層（Hue7.5YR2/3）　厚さ15cm。きわめて黒色が強い。遺物取り上げの１層。北側にはブロック状に一部にしか堆積していない。旧来の古代遺物包含層である。

９層：暗褐色土層（Hue7.5YR3/3）　厚さ10～20cm。肉眼では赤色を呈する。遺物取り上げの２層。ほぼ調査区全域に分布している。この下の層がその上部にマンガン集積層を形成する（10層・13層）。古代の遺物が含まれる。

10層：極暗褐色土層（Hue7.5YR2/3）　厚さ10cm。調査区の南側を中心に堆積する。マンガンはブロック状に層中に含まれる。縄文時代の遺物が含まれる。

11層：黒褐色土層（Hue7.5YR3/2）　本来の地山層。

12層：極暗褐色土層（Hue7.5YR2/3）　厚さ10cm。調査区の北側を中心に堆積する。南側の10層相当層。

13層：黒褐色土層（Hue7.5YR2/2）　厚さ15cm。調査区の北側を中心に堆積する。南側の11層相当層で、本来の地山層。

14層：黒褐色土（Hue7.5YR3/2）　調査区の北側を中心に堆積する。13層よりやや明るい色調である。南側の11層相当層で、本来の地山層。

以上の土層は、調査区南側を中心に堆積する６層とほぼ全域に堆積する９層が古代遺物を含む層に、調査区南側を中心に堆積する10層および11層と北側を中心に堆積する12～14層が縄文時代の遺物を包含する層としてまとめることができる。２層は13世紀末以降の溝（河川流路）と考えられる43・44・45号溝に切られており、５～２層は古代以降中世以前の堆積物であると考えられる。

（3）検出遺構（図５）

本調査区では、近代・近世溝１条、中世溝１条、古代の溝14条と竪穴住居址１基、古墳時代末の溝１条と竪穴住居址１基、古墳時代前期の竪穴遺構２基、縄文時代後期末の竪穴住居址１基を検出した。

＜溝＞（図５・６）

１号溝（図６・７）

調査区の南側の一画で検出した東西方向に走る幅３ｍ、深さ80cm の断面形逆台形を呈する溝である。ほぼ底面近くからウシのような大型の動物の四肢骨と思われる破片と近世陶磁器の小片など（図12：１～３）が出土した。0314調査地点Ⅱ区の５号溝と9511調査地点の10号溝に繋がる。

３～５号溝（図６・７）

調査区の北西角で検出したほぼ南北方向に平行して走る溝である。南側は攪乱によって破壊されている。３号溝は幅20～30cm、深さ10～30cm の断面Ｕ字形の３本の溝が平行しており、４号・５号溝は浅い立ち上がりの鈍い1.5～２ｍの溝である。いずれも基底部は部分的ではあるがマンガンの集積により固い。時期を示すような目立った遺物はないが、北側に位置する9801調査地点の30～33号・40号溝と方向的にも一致し、構造もよく似ていることから一連の溝と思われ、古代のものである可能性が高い。

６号溝（図５・７）

調査区西壁から南西方向へ延びる溝で、南側は攪乱によって破壊されている。幅1.4m、深さ40cm の断面形逆台形を呈する。0314調査地点Ⅱ区７号溝と9511調査地点の19号溝につながるものと思われる。

８・９号溝（図５・７）

調査区北東部から東西方向にほぼ平行して延びる溝である。幅40cm 深さ15～20cm あまりの断面形逆台形を呈する溝である。溝間は約2.5mあまりであるが、８号溝は途中で途絶えている。

10・20号溝（図５・７）

調査区西壁から南角にかけて南北方向に走る２本の溝である。10号溝は幅１ｍあまり、深さは50cm 断面形逆台形を呈する溝である。20号溝は、幅は10号溝とほぼ同じであるが、深さが15cm ほどとかなり浅い。溝の方向からみて、10号溝はＩ区の27号溝に繋がり、20号溝はＩ区の26号溝へ繋が

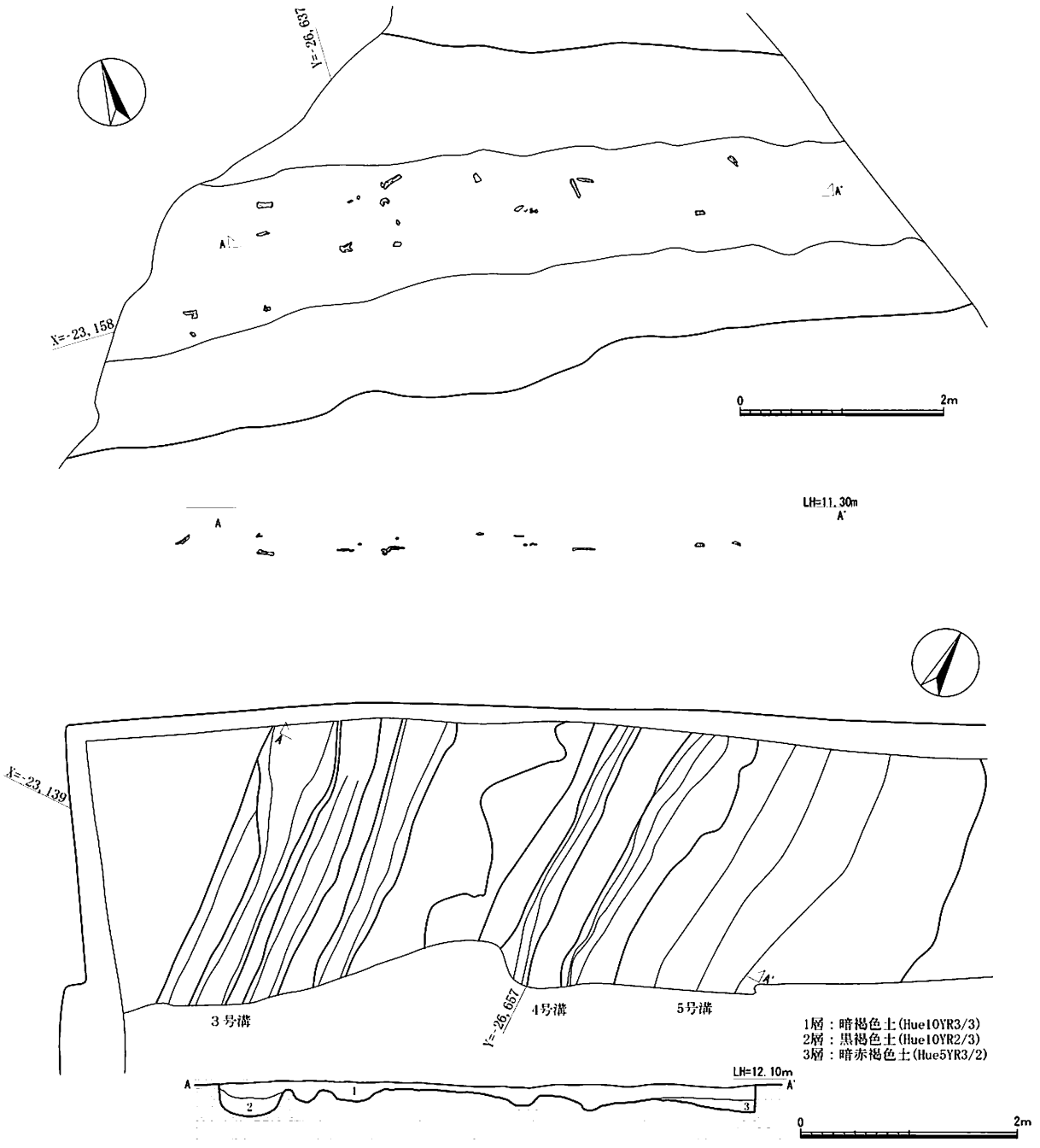


図6　1号溝・3号・4号・5号溝実測図（3/200・1/60）

る可能性が高い。これらの溝は調査区北側では一部重なるが、南角ではやや離れており、調査区外へ行くにつれ溝間の距離は広くなるものと思われる。20号溝からは土師器の甕形土器や坏の他、須恵器の付蓋、坏身、長頸壺、大形甕の破片類（図12：15－20）が、10号溝の延長部と思われる27号溝からは土師器の甑把手、須恵器の横瓶、高台付坏、高坏（図12：25－28）が出土している。

11号溝（図5・7）

調査区北角で検出した溝状の遺構で、南側へは延びない。幅90cm、深さ20cm で、断面形はほぼレンズ状を呈する。

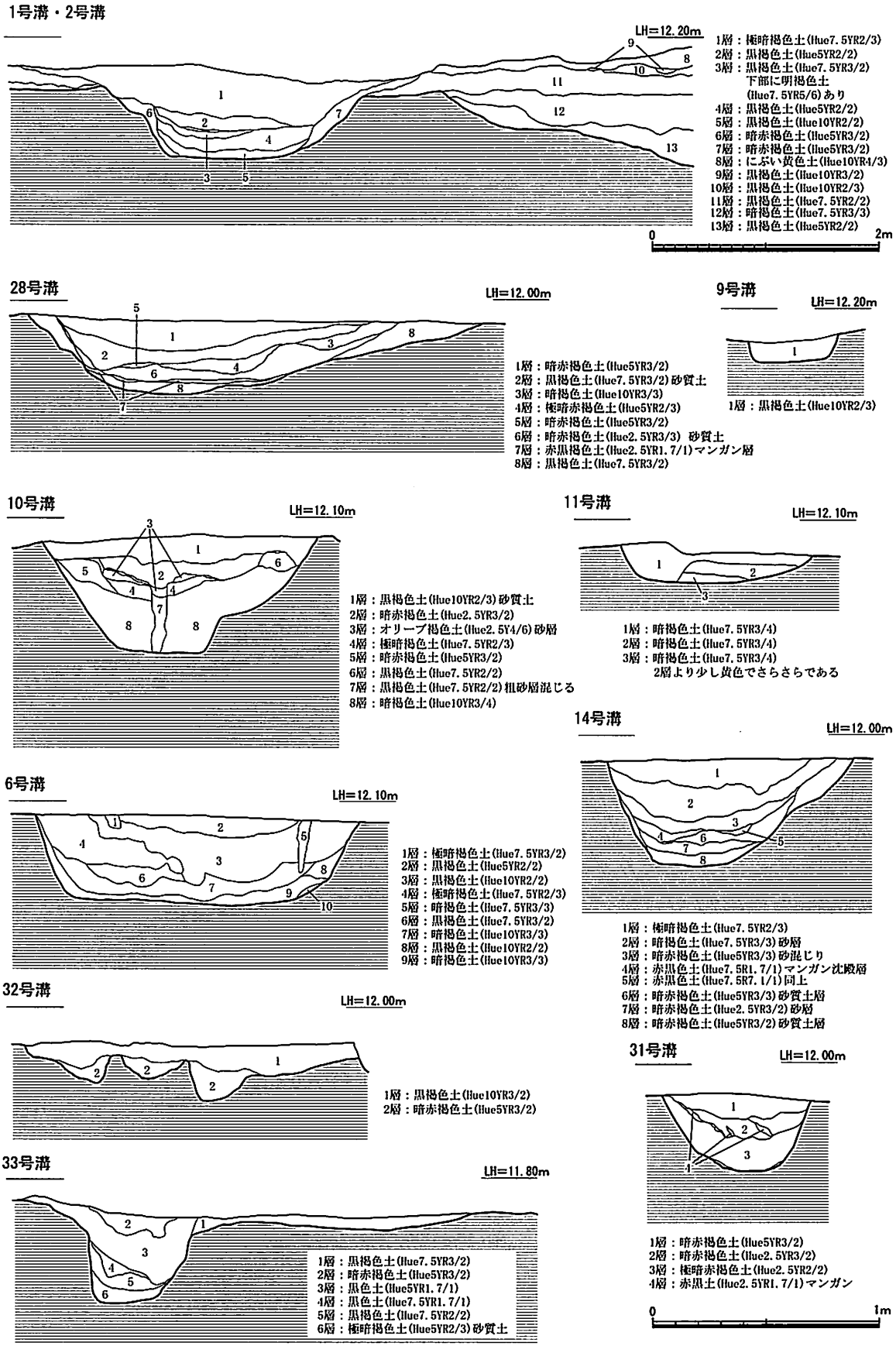


図7　各溝の土層断面実測図（1/50・1/25）

14号溝（図５・７）

調査区の北角から南へ延びる、断面形逆台形の溝である。幅１m、深さ50cmである。大部分直線的であるが、北側部分はやや東方向へ湾曲している。比較的大きな破片として土師器甕片と須恵器小壺の破片（図12：６・７）が出土した。

28号溝（図５・７）

調査区の西壁から南北方向に走る溝であり、10号・20号溝の下に重なるように位置する。幅２m、深さ30cmあまりである。断面形はレンズ状を呈する。出土遺物としては、古代の土師器の甕、甑もしくは竈の把手、高坏（図12：29－32）などが出土している。

31号溝（図５・７）

調査区東側南部に東西方向に走る断面形U字形の溝である。幅70cm、深さ35cmである。西側は15号竪穴住居址に切られており、その先は攪乱で破壊されている。走向と断面形の特徴から、9511調査地点の55号溝に繋がるものと思われる。中間部は0314調査地点Ⅱ区で検出した６号溝に相当する。総延長で90m以上あったものと思われる。15号竪穴住居址との切り合いから６世紀代まで遡る可能性もある。

32号溝（図５・７）

調査区北角に八手状に延びる溝状の遺構である。断面形は整形でなく、凸凹しており、自然の水力による削平の可能性もある。

33号溝（図５・７）

調査区南側中央部を蛇行しながら北西から南東に延びる幅60cm～１mの溝である。幅も一定せず、水流れによる凸凹の窪みが認められる。その一つが49号ピットである。２号土坑と接合した須恵器壺（図12：14）があり、一連の水田などの水利に係る遺構である可能性もある。２号溝からは土師器の高坏片（図12：4）が、33号溝からは須恵器類（図12：11－13）が出土した。また、49号ピットからは図12：23の須恵器の坏が出土した。

43・44・45号溝（図５）

調査区の南東壁にかかるように南北に走る断面逆台形の溝であり、堆積土中には粗い砂層が土層と互層になっている。底面付近で検出しており、３つの溝と判断したが、底面形状が凸凹であるためこのように見えている可能性がある。調査区の土層断面図（図５上２段目Ｅ－Ｆ間、Ｇ－Ｈ間）に堆積状況が確認できる。小片で図示していないが、鎬葉連弁の青磁碗の口縁部片が出土しており、13世紀末以降の溝であると思われる。

＜竪穴住居址＞

15号竪穴住居址（図８）

調査区東側に位置する６×5.5mの長方形プランをもつ竪穴住居址である。竈は西壁に設けられていた可能性が高いが、この部分は攪乱によって破壊されている。攪乱で破壊された部分の中央部に竈の資材と思われる砂岩礫が８個ほど散乱しており、これを裏付けている。中央部に硬化面が認められ、それらを除去すると、直径40～50cm、深さ40cmほどの柱穴が４個四角に配置されていることが確認できた。その土層断面にみる柱痕跡の直径は15～20cmほどである。住居の大きさや構造、出土遺物（図12：8－10）などから７世紀初頭のものと思われる。

30号竪穴住居址（図９）

調査区南端の一角で検出した竪穴住居址と思われる縄文時代後期末の遺物の集中区である。直径４ほどの範囲に、縄文土器片および摩石や凹み石、打製石斧の破片などが集中して出土した。明確な住

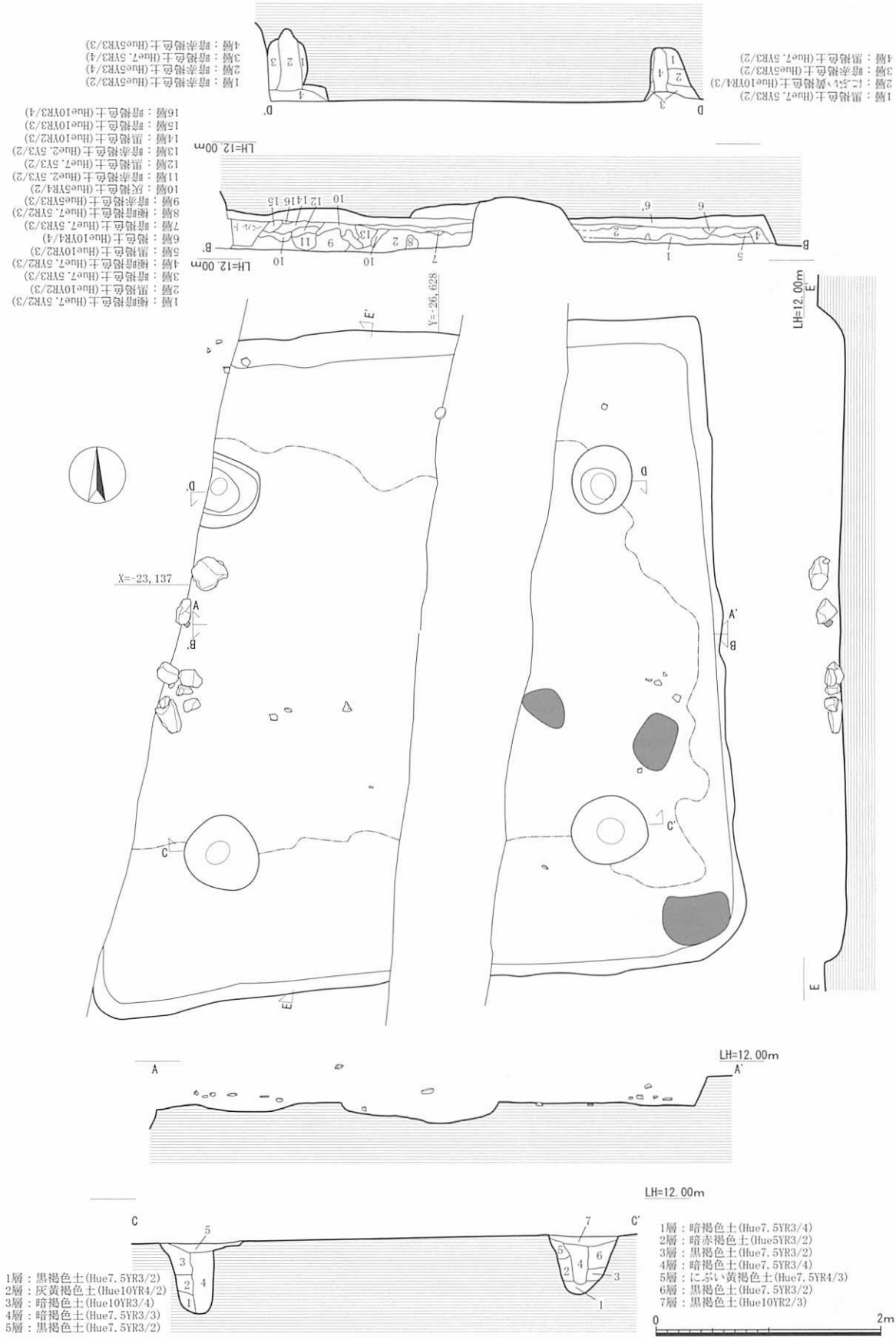


図８　15号竪穴住居址実測図（1/50）

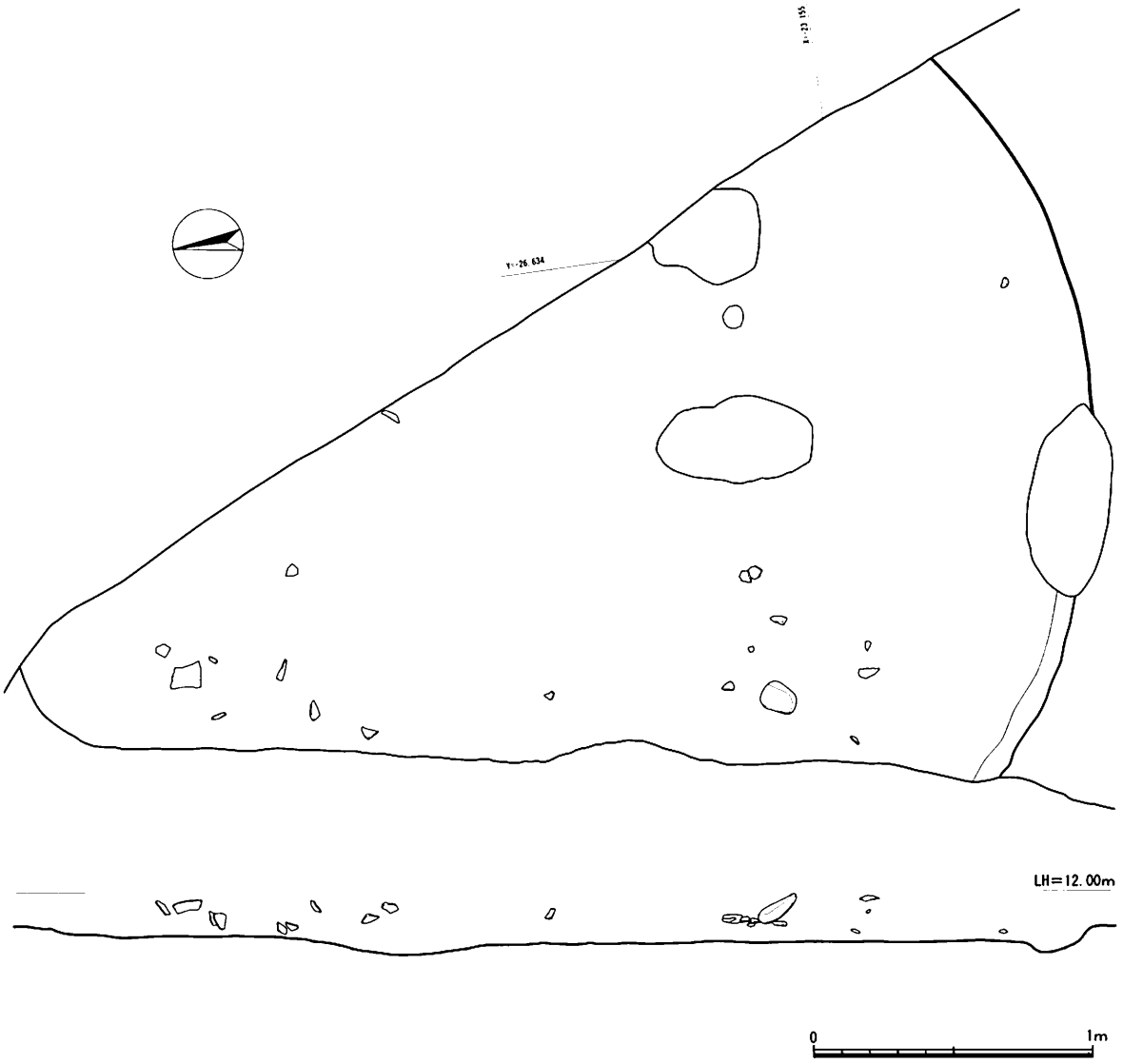


図９　30号竪穴住居址実測図（1/50）

居の壁の立ち上がりや炉址などは把握できなかったが、本来は竪穴住居址であった可能性が高い。住居址と認識した時点でこの遺構に伴うと想定した遺物として、図12：40－42、55があるが、43番の打製石斧もこの範囲に入るもので、本来は住居址に伴う遺物であると考えられる。

＜竪穴遺構＞

21号竪穴遺構（図10）

調査区の北東部で検出した５×4.5mの台形状を呈する竪穴遺構である。深さ30cmあまりで、底面は平坦であるが、壁部に相当する立ち上がりは緩やかである。南西部に幅30cmほどの竈状の突出した張り出し部が認められる。時期を示す遺物として、遺構の東側より検出した土師器甕（図12：22）があり、古代の土師器甕である。ただし、出土した大きな土器の破片はこれのみであり、西側にある22号竪穴とよく似た構造をもつことから、古墳時代前期の遺構としている。

22号竪穴遺構（図11）

21号建物址の西側５mのところにある同様の張り出しをもつ竪穴である。南半分を攪乱によって破壊されている。やや不正形であるが、ほぼ隅丸の正方形のプランをもつ。北側角に幅30～40cmの竈状の突出部をもつ。深さは30～40cmであるが、断面形を見ると緩やかな立ち上がりをもつ皿状であ

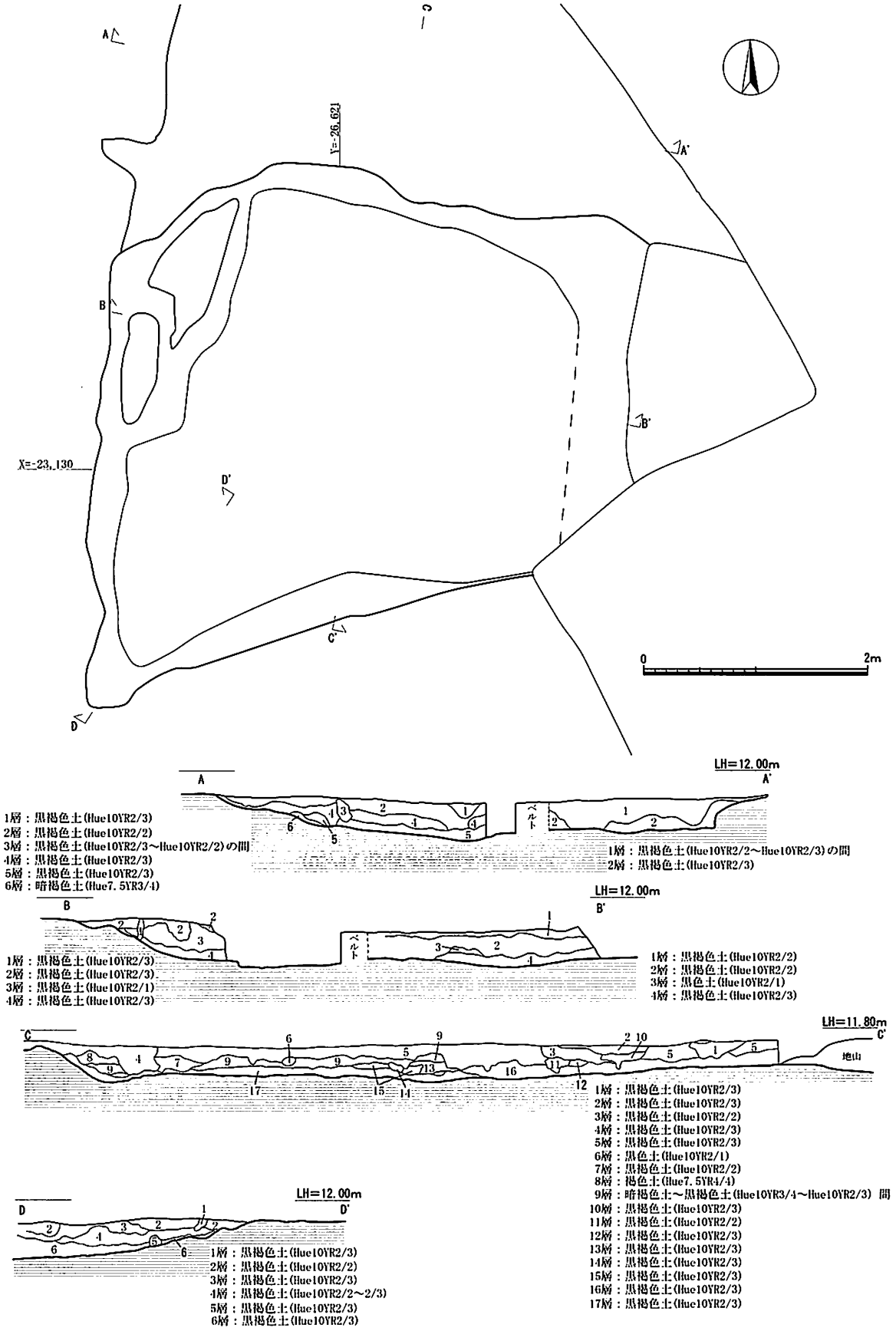


図10　21号竪穴遺構実測図（1/50）

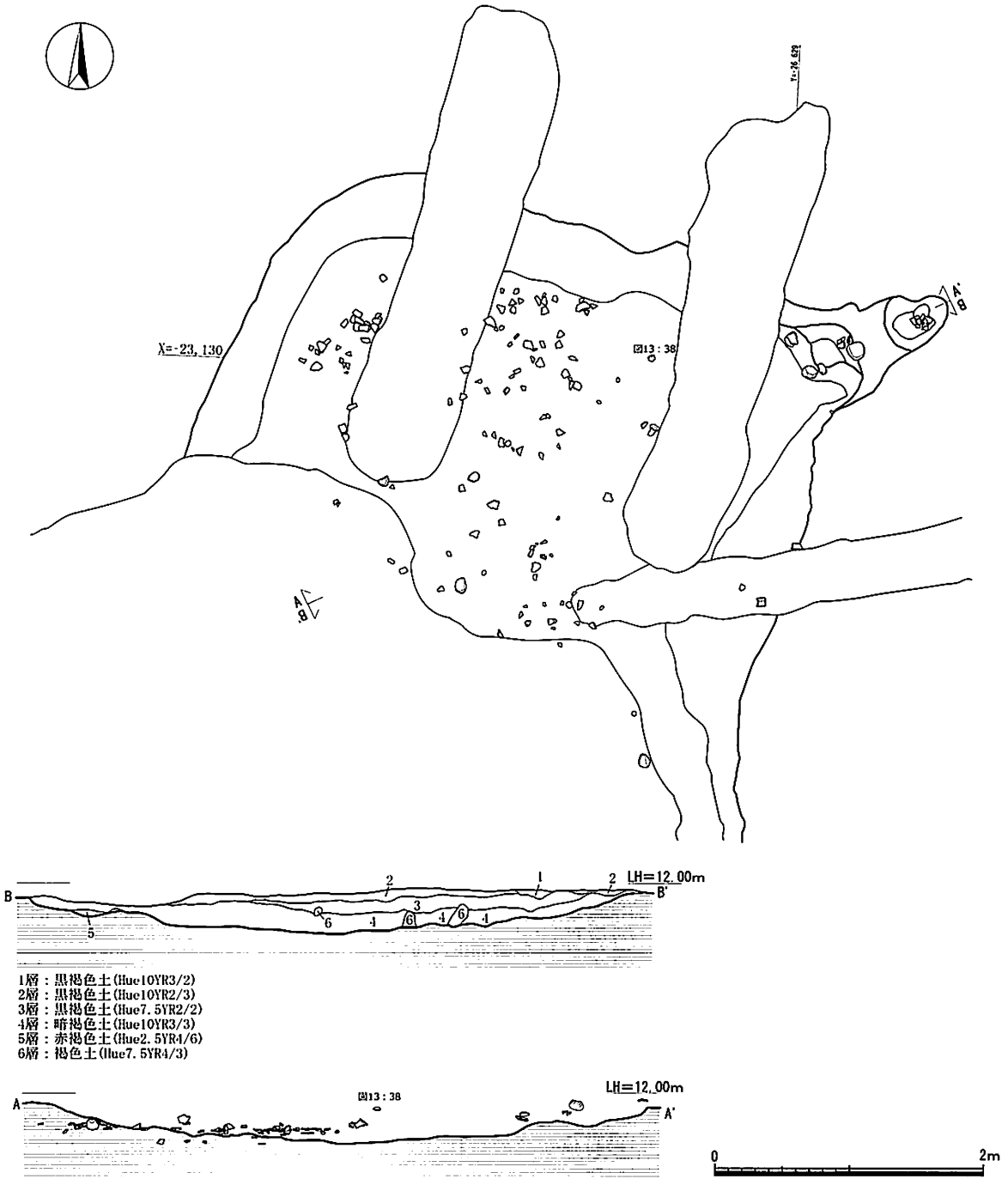


図11　22号竪穴遺構実測図（1/50）

る。内部から古墳時代前期の土師器の各種土器片が出土した（図12：33－37）。図12：38の須恵器坏も遺構の平面的な範囲の中に含まれているが、出土位置が他の土器類に比べて高く、本来この遺構に伴うものではないと考えられる。

これらの竪穴遺構は、張り出し部分を竈と考え、22号のような多数の土器が含まれることから、住居の可能性も想定したが、この部分を水口と考えれば溜池状の遺構とも考えられる。ただし、堆積状況などもそのような特徴は認められず、決め手を欠いており、正確な機能は不明である。

（4）出土遺物（図12・13）

＜１号溝出土遺物＞

図12：１・２は近世陶磁器の碗の破片である。１は褐釉のかかる陶器碗、２は青磁碗である。３は土師器の鉢形土器の屈曲部の破片である。

＜２号溝・33号溝・49号ピット出土遺物＞

図12：４は土師器の高坏の脚部上半の破片である。11と12は須恵器の高台付坏の底部の破片である。13は上部が椀型を呈する高坏の坏底部の破片である。14は33号溝出土品と２号土坑出土品が接合したもので、算盤形の胴部をもつ須恵器の壺形土器の胴部片である。片部には櫛歯の連続刺突文様がある。

＜20号溝出土遺物＞

図12：15は口縁部に反しがわずかに残る須恵器の坏蓋の破片である。16も同じく坏蓋の破片であり、低い宝珠形のつまみを残す。17は土師器の鉢で、肥厚し外反する口縁部が特徴的であり、内面削りを施す。18は須恵器の坏の底部破片である。底部外面に×字のヘラ記号が認められる。19は須恵器の大甕の底部付近の破片である。外面に平行叩き、内面に青海波状文の叩き痕が認められる。20は須恵器の長頸壺と思われる胴部の破片である。21は土師器の坏の口縁部片である。内面に磨きの痕跡がある。23は33号溝の中にある49号ピットから出土した須恵器の坏である。口縁部をおよそ2/3ほど欠いている。

＜47号ピット出土遺物＞

図12：24は肩部に張り出し部をもつ須恵器壺の破片である。包含層から出土したものと接合して体部の1/4ほどに復元できた。

＜27号溝出土遺物＞

図13：25は土師器の甑の把手である。26は須恵器の横壺の胴部片、27は須恵器の高台付坏の底部片、28は須恵器高坏の坏部片である。

＜28号溝出土遺物＞

図13：29は甑土師器の甕形土器の頸部の破片である。30と32は土師器の甑または移動式竈の把手である。31は土師器高坏の脚部である。赤色顔料を塗布している。

＜22号竪穴遺構出土遺物＞

図13：33－37は古式土師器の壺形土器である。33は二重口縁壺形土器、34と36は甕形土器、35は高坏、37は小型丸底壺の破片である。いずれも４世紀代に収まるものと思われる。38は６世紀末～７世紀初の時期に比定される須恵器の坏身であり、出土状況から本遺構に伴うものではない。39は円礫を利用した叩き石である。側面を中心に敲打痕が認められる。

＜30号竪穴住居址出土遺物＞

図13：40は縄文後期末の古閑式土器の深鉢の口縁部片である。41もほぼ同じ時期の深鉢形土器の胴部片と思われる。42は平坦な面の両面に凹みをもつ凹石である。周囲の側面は敲打痕が認められ、平坦面はよく擦れている。55はヘラ状の打製石斧である。素材は頁岩と思われる。43は安山岩製の打製石斧の頭部の破片である。

＜その他の遺物＞

図13：44－46は包含層および攪乱層から出土した陶磁器である。44は陶器碗、45も褐釉のかかった土瓶の把手の付け根部分の破片である。46は青磁碗、47は白磁の皿の口縁部片である。48は須恵器の高台付坏の底部片である。49は須恵器の蓋である。50は縄文時代後期前葉の鐘崎式の深鉢形土器の胴部片と思われる。51・52は土製の網錘である。53は石製の紡錘車の破片である。54は青銅製の金環の

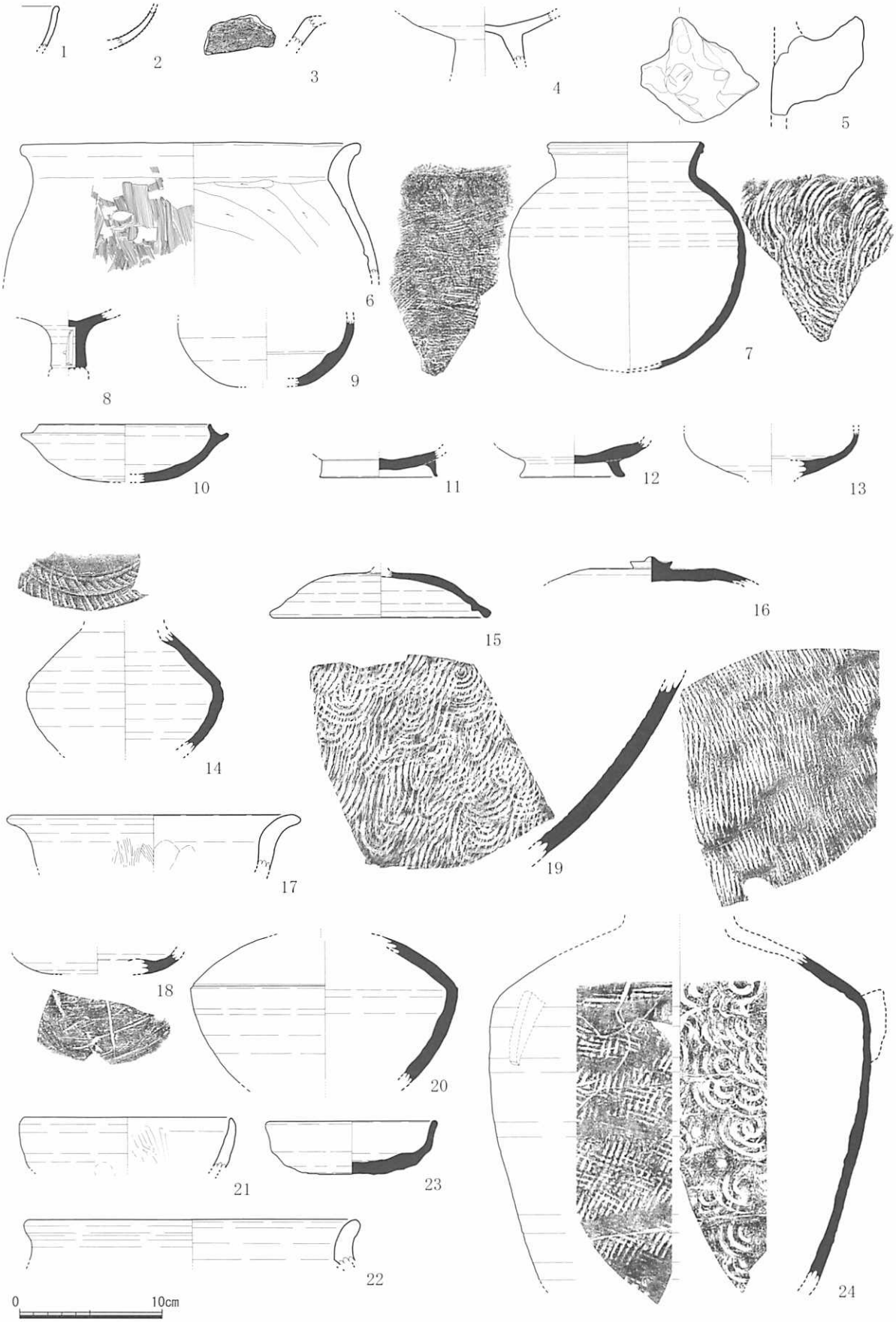


図12　0402調査地点出土遺物実測図1（1/4）

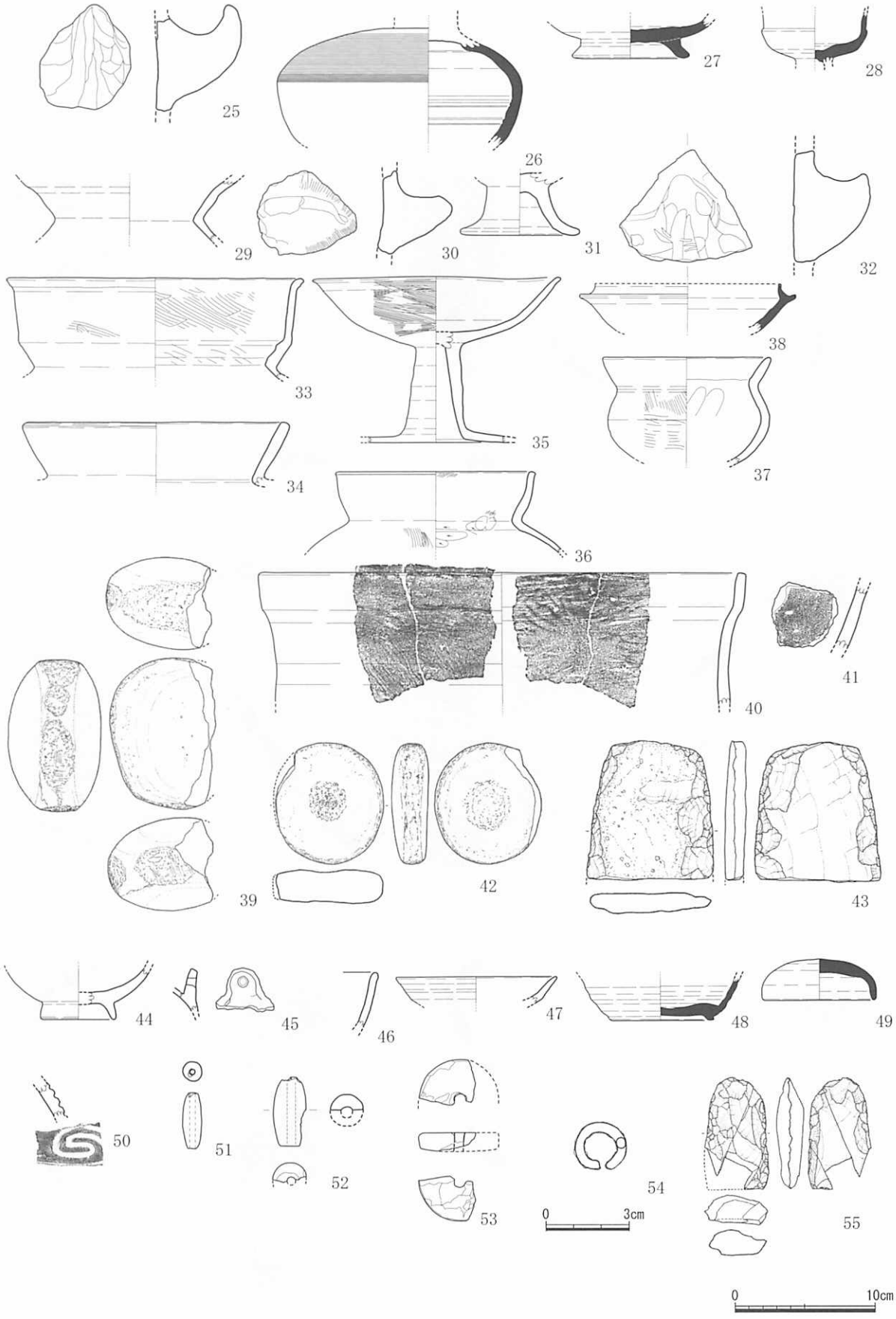


図13　0402調査地点出土遺物実測図2（1/4・1/2）

表２　0402調査地点出土遺物一覧表

図	番号	遺物	種類（器種）	法量（cm）	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
12	1	陶器	碗	口径 底径 器高	口縁部片	内：釉 外：釉	内：Hue 5Y5/2 外：Hue 7.5YR6/4	1号溝2層上	
	2	青磁	碗	口径 底径 器高	破片	内：釉 外：釉	内：緑灰色 外：Hue N7/0	1号溝1層	
	3	縄文土器	深鉢型土器	口径 底径 器高	破片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 2.5Y7/3 外：Hue 5YR6/8	Ⅰ区1号溝2層	外面に丹塗り、内面に圧痕
	4	土師器	高坏	口径 底径 器高	1/5	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue 7.5YR7/8 外：Hue 7.5YR6/8	2号土坑 P-1	赤色化粧土
	5	土師器	甑	口径 底径 器高	把手のみ	内：ナデ 外：ナデ、削り、ハケ目	内：Hue 5Y R7/6 外：Hue 5Y R6/6	Ⅲ区10号溝1層	
	6	土師器	甕	口径 23.6 底径 器高	1/8	内：ナデ、ヘラ削り 外：ナデ、ハケ目	内：Hue 5YR6/6 外：Hue 5YR5/6	14号溝 P-1	内面にコゲあり
	7	須恵器	壺	口径 11.5 最大径 17.2 器高	1/5	内：横ナデ、タタキ 外：横ナデ、タタキ	内：Hue 2.5Y2/1 外：Hue 2.5Y2/1	14号溝 P-2	
	8	須恵器	高坏	口径 底径 器高	破片	内：回転ナデ 外：回転ナデ、削り、	内：Hue 10Y8/1 外：Hue 10Y8/1	15号竪穴住居址 P-12	透かしあり
	9	須恵器	壺？	口径 底径 器高	破片	内：回転ナデ、ヘラ削り 外：回転ナデ	内：Hue 10Y6/1 外：Hue 10Y4/1	15号竪穴住居址 P-4、P-5	
	10	須恵器	坏	口径 14.6 底径 器高	1/8	内：ナデ、削り 外：ナデ、削り	内：Hue 5Y6/1 外：Hue 10Y6/1	15号竪穴住居址 P-1	
	11	須恵器	碗	口径 底径 8.4 器高	1/4	内：回転ナデ、削り 外：回転ナデ、削り	内：Hue 2.5Y6/2 外：Hue 7.5Y5/1	33号溝 P-2	
	12	須恵器	碗	口径 底径 7.2 器高	1/6	内：回転ナデ、削り 外：回転ナデ、削り	内：Hue 7.5Y5/1 外：Hue 7.5Y4/1	33号溝 P-6	
	13	須恵器	高坏？	口径 底径 器高	坏部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ、削り、	内：Hue 10Y4/1 外：Hue 10Y4/1	33号溝	
	14	須恵器	壺	口径 最大径 14.0 器高	1/8	内：横ナデ 外：横ナデ	内：Hue 7.5Y7/1 外：Hue 5P B7/1	33号溝、2号土坑	外面に櫛目文あり
	15	須恵器	蓋	口径 15.8 底径 器高	1/3	内：横ナデ 外：横ナデ	内：Hue 5Y8/1 外：Hue 5Y8/1	20号溝 P-1	
	16	須恵器	蓋	口径 底径 器高	1/3	内：ナデ 外：横ナデ	内：Hue 5Y5/1 外：Hue N4/0	20号溝 P-4	
	17	土師器	鉢	口径 20.8 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、削り 外：横ナデ、ハケ目	内：Hue 5YR5/6 外：Hue 5YR5/6	20号溝 P-3	
	18	須恵器	坏	口径 底径 器高	底部片	内：横ナデ 外：横ナデ	内：Hue 5Y5/2 外：Hue 5Y6/2	20号溝	底部にカキ目あり
	19	須恵器	甕	口径 底径 器高	胴部片	内：タタキ 外：ナデ、タタキ	内：Hue 2.5Y5/1 外：Hue 10YR4/2	20号溝 P-6	
	20	須恵器	壺	口径 最大径 19 器高	胴部1/6	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 2.5Y8/2 外：Hue 2.5Y7/2	20号 溝、20 0 号溝 P-2	
	21	土師器	鉢	口径 14.7 底径 器高	口縁部片	内：ナデ、ヘラ削り 外：ナデ	内：Hue 5YR6/4 外：Hue 5YR6/4	20号溝	
	22	土師器	甕	口径 23.8 底径 器高	口縁部片	内：横ナデ 外：横ナデ	内：Hue 5YR6/6 外：Hue 5YR6/6	21号竪穴遺構、21号東	
	23	須恵器	坏	口径 12.2 底径 5 器高 3.8	3/5	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 2.5G Y4/1 外：Hue 10Y6/1	49号ピット P-5、2号土坑Ⅲ層	
	24	須恵器	三耳壺	口径 最大径 27.4 器高	1/4	内：同心円タタキ 外：格子タタキ	内：Hue 5Y5/1 外：Hue 2.5Y6/3	47号ピット、Ⅱ区1層、Ⅱ区南2層上部、Ⅱ区上層	
13	25	土師器	甑	口径 底径 器高	把手のみ	内：ナデ、削り 外：ナデ、削り	内：Hue 5YR7/4 外：Hue 7.5YR8/4	27号溝 P-1	
	26	須恵器	平瓶	口径 最大径 17.6 器高	1/3	内：ナデ、削り 外：ナデ、ハケ目	内：Hue 2.5Y7/2 外：Hue 5Y7/1	27号溝、Ⅰ区2層	
	27	須恵器	碗	口径 底径 8.4 器高	1/3	内：回転ナデ 外：回転ナデ、削り	内：Hue 5Y7/2 外：Hue 5Y7/1	27号溝	
	28	須恵器	高坏	口径 底径 器高	1/5	内：ナデ 外：ナデ、削り	内：Hue 10Y4/1 外：Hue 10Y3/1	27号溝	
	29	土師器	壺	口径 底径 器高	肩部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ	内：Hue 10YR6/4 外：Hue 10YR7/4	28号溝 P-7	
	30	土師器	甑	口径 底径 器高	把手のみ	内：ナデ 外：ナデ、削り、ハケ目	内：Hue 2.5Y R7/6 外：Hue 2.5Y R6/6	28号溝 P-4	
	31	土師器	高坏	口径 底径 8.6 器高	1/3	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 7.5Y R7/4 外：Hue 7.5Y R7/4	M28号溝 P-1	一部に赤色化粧土が残る

図	番号	遺物	種類（器種）	法量（cm）	残存量	特徴	色調	出土遺構	備考
13	32	土師器	甑	口径 底径 器高	把手のみ	内：ナデ、削り 外：ナデ、削り	内：Hue 7.5Y R4/3 外：Hue 7.5Y R4/2	M28号溝	
	33	土師器	二重口縁壺？	口径 21 底径 器高	口縁部1/5	内：ナデ、削り、ハケ目 外：ナデ、削り、ハケ目	内：Hue 7.5YR7/4 外：Hue 7.5YR6/4	22号竪穴遺構 P-15、P-17	
	34	土師器	壺	口径 18.8 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ	内：Hue 7.5Y R7/4 外：Hue 7.5Y R8/4	22号竪穴遺構 P-12、P-22、P-29	内外面にススあり
	35	土師器	高坏	口径 17.85 底径 器高 11.9	3/4	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ハケ目	内：Hue 2.5YR6/6 外：Hue 7.5YR6/4	22号竪穴遺構 P-1、P-5、P-6、P-7、P-8、P-9、北中央	
	36	土師器	壺	口径 14.2 底径 器高		内：回転ナデ 外：回転ナデ、ハケ目	内：Hue 5YR7/4 外：Hue 7.5YR2/1	22号竪穴遺構 P-25	外面にススあり
	37	土師器	小壺	口径 12 底径 器高	1/3	内：ナデ、削り 外：ナデ、ハケ目	内：Hue 2.5YR4/6 外：Hue 2.5YR4/6	22号竪穴遺構 P-2、P-3	内外面にコゲあり
	38	須恵器	坏	口径 13.2 底径 器高		内：回転ナデ、削り 外：回転ナデ	内：Hue 5Y6/1 外：Hue 5Y6/1	22号竪穴遺構 P-4	
	39	石器	敲石	長さ 11.92 幅 7.66 厚さ 6.53			内：Hue 外：Hue	22号竪穴遺構 S-2	重量755g、一部欠損、安山岩？
	40	縄文土器	深鉢型土器	口径 35 底径 器高	口縁部片	内：ナデ 外：ナデ、磨き	内：Hue 2.5Y7/3 外：Hue 2.5Y6/3	30号竪穴住居址 P-4	
	41	縄文土器	深鉢型土器	口径 底径 器高	破片	内：ナデ、磨き 外：ナデ、磨き	内：Hue 2.5Y6/2 外：Hue 7.5YR6/4	30号竪穴住居址 P-13	内面に圧痕あり
	42	石器	凹岩	長さ 8.67 幅 7.68 厚さ 2.31	ほぼ完形		内：Hue 外：Hue	30号竪穴住居址 S-1	重量254g、砂岩
	43	石製品	打製石斧	長さ 9.97 幅 9.05 厚さ 1.45			内：Hue 7.5YR7/4 外：Hue 10YR8/4	Ⅰ区 S-1	重量228g、安山岩、刃部側欠損
	44	陶器	碗	口径 底径 5.4 器高	1/5	内：釉 外：釉	内：Hue 2.5Y8/4 外：Hue 2.5Y6/4	Ⅰ区 撹乱	
	45	陶器	土瓶	口径 底径 器高	耳部のみ	内：釉 外：釉	内：Hue 10Y5/1 外：Hue 10Y4/1	Ⅱ区1層	
	46	青磁	碗	口径 底径 器高	口縁部片	内：釉 外：釉	内：Hue 7.5Y5/2 外：Hue 7.5Y5/2	Ⅰ区撹乱	
	47	白磁	皿	口径 11.6 底径 器高	口縁部片	内：釉 外：釉	内：Hue 2.5G Y8/1 外：Hue 5Y8/1	1区撹乱	
	48	須恵器	碗	口径 底径 7.45 器高	底部片	内：回転ナデ 外：回転ナデ、ヘラ削り	内：Hue 2.5G Y6/1 外：Hue 10Y6/1	Ⅲ区10891	
	49	須恵器	蓋	口径 8.2 底径 器高3	1/2	内：ナデ、削り 外：ナデ、削り	内：Hue 5Y6/1 外：Hue 5Y6/1	Ⅰ区2層	外面一部に自然釉あり
	50	縄文土器	深鉢型土器？		肩部破片	内：ナデ 外：磨き	内：Hue 2.5Y6/4 外：Hue 2.5Y5/4	Ⅱ区包含層	外面に文様（凹線文）あり
	51	土製品	土錘	長さ 4.0 幅 1.35 厚さ 1.35	完品	内： 外：ナデ	内：Hue 外：Hue 5YR5/6	Ⅱ区	
	52	土製品	土錘	長さ 4.95 幅 2.35 厚さ	1/2	内： 外：ナデ	内：Hue 10Y R8/3 外：Hue 7.5Y R6/6	Ⅰ区1層	
	53	須恵器	紡錘車	長さ 4.1 幅 3.25 厚さ 1.3	1/4		内：Hue 外：Hue 7.5Y8/1	Ⅱ区1層	
	54	青銅製品	耳環	長さ 1.71 幅 1.9 厚さ 0.4			内：Hue 外：Hue	Ⅱ区包含層	重量２g
	55	石製品	石斧	長さ 8.11 幅 4.5 厚さ 1.84			内：Hue 外：Hue	30号竪穴住居址 S-4、S-5、S-6	重量72g、局部磨製ヘラ状石器、頁岩
14	56	石器	石核	長さ 2.88 幅 3.26 厚さ 2.25			内：Hue 外：Hue	Ⅲ区1層	重量18g、黒曜石
	57	石器	剥片	長さ 2.24 幅 2.15 厚さ 0.77			内：Hue 外：Hue	M12下層	重量３g、黒曜石
	58	石器	剥片	長さ 2.29 幅 2.27 厚さ 0.59			内：Hue 外：Hue	出土位置不明	重量2g、黒曜石
	59	石器	剥片	長さ 2.49 幅 2.66 厚さ 0.65			内：Hue 外：Hue	Ⅰ区マンガン層下	重量3g、黒曜石
	60	石器	打製石鏃	長さ 1.93 幅 1.64 厚さ 0.35			内：Hue 外：Hue	包含層	重量1g、黒曜石、欠端片脚を欠く

可能性が高い。図14：56－60は佐賀県伊万里市腰岳産と思われる漆黒色の黒曜石を用いた石核、剥片、石鏃である。これらはいずれも各区の包含層から検出した。

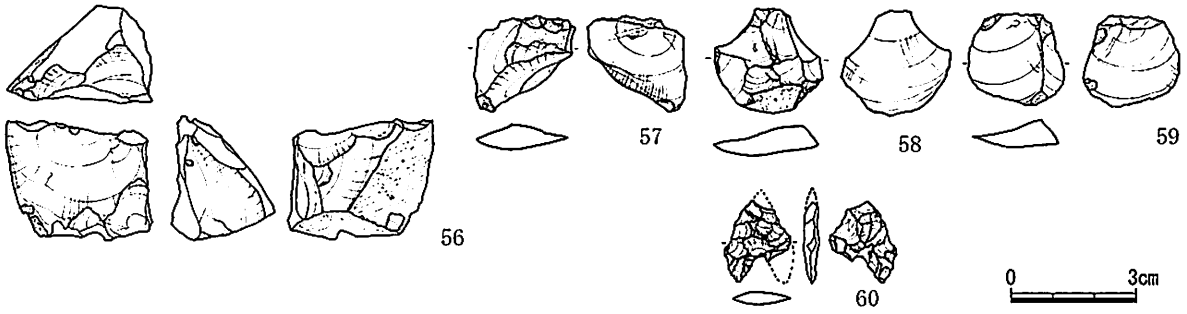


図14　0402調査地点出土遺物実測図3（1/2）

（5）まとめ

今回の発掘調査では、ほぼ調査予定地の約半分が既存建物のために破壊されていたが、それ以外の部分では、予想どおり地表下1.3～1.4m以下の部分に遺構が良好に残っていることが判明した。溝や堀などを中心とした遺構群ではあったが、古墳時代末には住居が存在し、９世紀後半～10世紀以後に水田化する様相が把握できた。本調査区地点は現在も白川から流れ込む小河川の近くに位置しており、水の影響を大きく受ける土地柄である。この一帯で集落が維持できなくなった理由の一つとして温暖化による洪水などの水害の増加も考慮してみる必要があろう。